第19回統一地方選挙全国意識調査

―調査結果の概要―

令和元年 12 月

公益財団法人 明るい選挙推進協会

はしがき

当協会は、統一地方選挙における有権者の投票行動と意識を探るため、第 5 回以来、全国の有権者を対象とした意識調査を行ってきました。

第 19 回統一地方選挙（平成 31 年 4 月 7 日道府県・指定都市、4 月 21 日市区町村）についても、全国の有権者 3,150 人を対象とし、郵送調査法により実施しました。

この報告書は、調査の設計、質問票及び回答の単純分布等を記すとともに、質問票への回答について、クロス分析や過去の調査結果との対比等を行い、「調査結果の概要」としてまとめたものです。

質問項目の作成や調査報告書の監修について、埼玉大学社会調査研究センター長　松本正生氏、東京大学大学院情報学環教授 前田幸男氏にご協力をいただきました。ここに厚くお礼申し上げます。

本調査が、今後の啓発事業のよき参考になれば幸いです。

令和元年 12 月

公益財団法人 明るい選挙推進協会

- 目　次 -

Ⅰ　調査の設計・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

Ⅱ　標本抽出方法・・・・・・・・・・・・・・・・・３

Ⅲ　質問票と回答の単純分布・・・・・・・・・・・・５

Ⅳ　はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０

Ⅴ　投票率・選挙競争率・・・・・・・・・・・・・２１

Ⅵ　調査結果の概要・・・・・・・・・・・・・・・２４
１　選挙関心度・・・・・・・・・・・・・・・・・２４
２　投票・棄権の選択・・・・・・・・・・・・・・２６
３　政党支持と投票行動・・・・・・・・・・・・・３１
４　投票・棄権の理由、投票決定時期等・・・・３４
５　選挙で考慮した政策課題・・・・・・・・・・３７
６　選挙関連情報への接触度と有効度・・・・・３９
７　選挙のあり方・・・・・・・・・・・・・・・・４４
８　国と地方の政治の評価・・・・・・・・・・・４７
９　議員の役割・・・・・・・・・・・・・・・・・４８
10　後援会への加入・・・・・・・・・・・・・・・４９
11　政治家の寄附禁止の周知・・・・・・・・・・５０
12　選挙制度など・・・・・・・・・・・・・・・・５１

Ⅰ　調査の設計

１　調査の目的

この調査は、平成 31 年 4 月 7 日、21 日に執行された第 19 回統一地方選挙における有権者の投票行動等の実態を調査し、今後の選挙啓発上の資料とすることを目的とする。

２　調査の項目

この調査は、次の諸項を調査の目的とした。

（１）道府県議会議員選挙の投票の経緯

（２）知事選挙の投票の経緯

（３）市町村長選挙の投票の経緯

（４）市町村議会議員選挙の投票の経緯

（５）地方選挙に関する意向

（６）政治に対する関心と態度

３　調査の設計

この調査は、次のように設計した。

（１）調査地域　　全国（岩手県、宮城県、福島県、茨城県、東京都、沖縄県を除く）

（２）調査対象　　満 18 歳以上の男女個人

（３）標本数　　3,150 人

（４）標本抽出　　選挙人名簿を使用

（５）抽出方法　　層化 2 段無作為抽出法

（６）調査方法　　郵送配布郵送回収法

（７）調査時期　　令和元年 7 月 3 日～ 8 月 9 日

事前葉書投函	6 月 28 日
調査票投函	7 月　3 日
１回目督促（葉書）投函	7 月 17 日
２回目督促（封書）投函	7 月 24 日

（８）調査実施委託機関　　一般社団法人 新情報センター

4　回収結果

（１）有効回収数（%）　1,712（54.3%）

（２）男女別・年齢別・都市規模別回収結果

① 男性（NA（無回答）を除く）

年　代	標本数	回収数	回収率（%）
18･19 歳	34	11	32.4
20 歳代	190	74	38.9
30 歳代	250	99	39.6
40 歳代	317	160	50.5
50 歳代	252	129	51.2
60 歳代	258	164	63.6
70 歳代	254	178	70.1
80 歳以上	81	39	48.1
計	1,636	854	52.2

② 女性（NA（無回答）を除く）

年　代	標本数	回収数	回収率（%）
18･19 歳	34	12	35.3
20 歳代	182	75	41.2
30 歳代	197	111	56.3
40 歳代	268	148	55.2
50 歳代	246	151	61.4
60 歳代	225	129	57.3
70 歳代	231	152	65.8
80 歳以上	131	54	41.2
計	1,514	832	55.0

③ 都市規模

都市規模	標本数	回収数	回収率（%）
大都市	810	441	54.4
20 万人以上の市	810	437	54.0
10 万人以上の市	555	290	52.3
10 万人未満の市	705	383	54.3
郡部（町村）	270	161	59.6
計	3,150	1,712	54.3

Ⅱ　標本抽出方法

1　母　集　団：全国の市町村に居住する満 18 歳以上の男女個人
（岩手県、宮城県、福島県、茨城県、東京都、沖縄県を除く）

2　標　本　数：3,150 人

3　地　点　数：175 市町村　210 地点

4　抽 出 方 法：層化 2 段無作為抽出法

〔層　化〕

（1）全国の市町村を、都道府県を単位として次の 11 地区に分類した。

（地　区）

北海道地区＝北海道	（	1 道）
東北地区　＝青森県、秋田県、山形県	（	3 県）
関東地区　＝栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、神奈川県	（	5 県）
北陸地区　＝新潟県、富山県、石川県、福井県	（	4 県）
東山地区　＝山梨県、長野県、岐阜県	（	3 県）
東海地区　＝静岡県、愛知県、三重県	（	3 県）
近畿地区　＝滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県	（2 府 4 県）	
中国地区　＝鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県	（	5 県）
四国地区　＝徳島県、香川県、愛媛県、高知県	（	4 県）
北九州地区＝福岡県、佐賀県、長崎県、大分県	（	4 県）
南九州地区＝熊本県、宮崎県、鹿児島県	（	3 県）

（2）各地区においては、さらに都市規模によって次のように 23 分類しそれぞれを第 1 次層として、計 52 層とした。

◎　大都市（都市ごとに分類）
（札幌市、さいたま市、千葉市、横浜市、川崎市、相模原市、新潟市、静岡市、浜松市、名古屋市、京都市、大阪市、堺市、神戸市、岡山市、広島市、北九州市、福岡市、熊本市）

◎　人口 20 万人以上の市

◎　人口 10 万人以上の市

◎　人口 10 万人未満の市

◎　郡部（町村）

（注）ここでいう市とは、平成 31 年 4 月 1 日現在市制施行の地域である。

（3）　各地区・都市規模別各層における母集団数（平成 30 年 1 月 1 日現在の 18 歳以上の人口）の大きさによりそれぞれ 3,150 の標本数を比例配分し、1 調査地点の標本数が 15 人になるように調査地点数を決めた。

〔抽　出〕

（1） 第1次抽出単位となる調査地点として、平成27年国勢調査時に設定された調査区を使用した。

（2） 調査地点（調査区）の抽出は、調査地点数が2地点以上割り当てられた層については、

$$\text{抽出間隔} = \frac{\text{層における国勢調査時の当該母集団人口（計）}}{\text{層で算出された調査地点数}}$$

を算出し、等間隔抽出法によって抽出した。また、層内での調査地点数が1地点の場合には、乱数表により無作為に抽出した。

（3） 抽出に際しての各層内における市町村の配列順序は、平成27年国勢調査時の、市区町村コード順に従った。

（4） 調査地点における対象者の抽出は、調査地点の範囲起点（町・丁目・番地・地区などを指定）から、選挙人名簿により等間隔抽出法によって抽出した。

〔結　果〕

以上の抽出作業の結果、得られた地区・都市規模別標本数及び調査地点数は、次のとおりである。

※（　）内は調査地点数

都市規模	大都市	人口20万人以上の市	人口10万人以上の市	人口10万人未満の市	郡　部（町　村）	計
北海道	60(4)	15(1)	30(2)	30(2)	30(2)	165(11)
東北		30(2)	15(1)	45(3)	15(1)	105(7)
関東	255(17)	240(16)	165(11)	120(8)	45(3)	825(55)
北陸	30(2)	45(3)	15(1)	60(4)	15(1)	165(11)
東山		30(2)	30(2)	60(4)	30(2)	150(10)
東海	120(8)	90(6)	90(6)	75(5)	30(2)	405(27)
近畿	210(14)	195(13)	90(6)	120(8)	30(2)	645(43)
中国	45(3)	45(3)	60(4)	45(3)	15(1)	210(14)
四国		45(3)	15(1)	30(2)	15(1)	105(7)
北九州	75(5)	45(3)	30(2)	75(5)	30(2)	255(17)
南九州	15(1)	30(2)	15(1)	45(3)	15(1)	120(8)
計	810(54)	810(54)	555(37)	705(47)	270(18)	3,150(210)

Ⅲ　質問票と回答の単純分布

道府県議会議員選挙についてお聞きします

Ｑ１　あなたは、４月７日に行われた道府県議会議員選挙について、どれくらい関心がありましたか。１つ選んで番号に○をつけてください。

n=1,712

12.1　非常に関心があった
36.6　多少は関心があった
34.4　あまり関心がなかった
14.3　全く関心がなかった
1.3　わからない
(1.3　無回答)

Ｑ２　あなたは、今回の道府県議選で投票に行きましたか。１つ選んで番号に○をつけてください。

56.7　投票に行った
34.9　投票に行かなかった → Ｑ９へお進みください
6.5　無投票であった
1.3　わからない → Q11へお進みください
(0.6　無回答)

Ｑ３　道府県議選で投票したのはどういう気持ちからですか。あなたの気持ちに一番近いものを１つ選んで番号に○をつけてください。

n=971

17.0　当選させたい候補者がいたから
37.1　政治をよくするためには投票することが大事だから
36.0　投票するのは住民の義務だから
6.5　団体、地元、知り合い等に頼まれて
1.3　その他（具体的に　　）
0.6　わからない
(1.4　無回答)

Ｑ４　当日投票をしましたか、それとも期日前投票又は不在者投票をしましたか。１つ選んで番号に○をつけてください。

n=971

67.4　当日投票をした
30.3　期日前投票をした
0.8　不在者投票をした → Ｑ５へお進みください
－　わからない → Ｑ５へお進みください
(1.5　無回答)

ＱＳＱ１　当日投票に行ったのは何時頃ですか。１つ選んで番号に○をつけてください。

n=654

59.3　午前中
30.1　午後（６時まで）
8.3　午後６時から８時の間
1.2　わからない
(1.1　無回答)

※Ｑ５へお進みください

ＱＳＱ２　期日前投票に行ったのは何時頃ですか。１つ選んで番号に○をつけてください。

n=294

45.2　午前中
33.3　午後（６時まで）
15.0　午後６時から８時の間
0.3　午後８時以降
1.4　わからない
(4.8　無回答)

※Ｑ５へお進みください

【Ｑ２で「投票に行った」と回答された方に引き続きお聞きします。】

Ｑ５　道府県議選で、あなたはどのような政策課題を考慮しましたか。あてはまるものを<u>いくつでも選んで</u>番号に○をつけてください。

n=971

53.5　医療・介護
28.8　教育
39.8　景気・雇用
26.8　少子化対策
45.6　高齢化対策
20.1　災害対策
7.8　治安対策
8.2　地方議会の改革
14.2　地方自治のあり方
12.2　地方の行財政改革
7.1　中小企業対策
5.7　農林水産業の振興
2.6　社会資本整備
13.1　環境対策
12.3　原発・エネルギー
10.1　地方創生
11.3　国政の動向
2.1　その他（具体的に　　）
8.1　政策は考えなかった
2.5　わからない
(0.9　無回答)

Ｑ６　道府県議選で、あなたが投票した人は何党の人でしたか。<u>１つ選んで</u>番号に○をつけてください。

46.5　自由民主党
12.3　立憲民主党
2.5　国民民主党
6.6　公明党
6.4　日本共産党
2.0　日本維新の会
4.9　大阪維新の会
0.1　自由党
－　希望の党
0.6　社会民主党
0.5　その他の党（具体的に　　）
7.6　無所属
1.3　白票を入れた
7.6　わからない
(1.0　無回答)

Ｑ７　あなたが道府県議選で投票する人を決めたのは、いつ頃でしたか。<u>１つ選んで</u>番号に○をつけてください。

28.5　選挙期間に入る前から（３月２８日以前）
28.0　候補者が出揃った時（３月２９日（金））
28.6　選挙期間中（投票日の前日まで）
11.5　投票日当日（４月７日（日））
2.4　わからない
(0.9　無回答)

Ｑ８　道府県議選で、あなたは政党を重くみて投票しましたか、それとも候補者個人を重くみて投票しましたか。<u>１つ選んで</u>番号に○をつけてください。

40.6　政党を重くみて
33.4　候補者個人を重くみて
21.8　一概にいえない
3.2　わからない
(1.0　無回答)

↓
※Q11 へお進みください

【Ｑ２で「投票に行かなかった」と回答された方にお聞きします。】

Ｑ９　道府県議選で投票に行かなかったのはなぜですか。あてはまるものを<u>いくつでも選んで</u>番号に○をつけてください。

n=597

23.8　仕事があったから
11.9　重要な用事（仕事を除く）があったから
12.9　体調がすぐれなかったから
2.2　投票所が遠かったから
37.9　選挙にあまり関心がなかったから
25.8　政党の政策や候補者の人物像など、違いがよくわからなかったから
9.4　支持する政党の候補者がいなかったから
16.6　適当な候補者がいなかったから
11.7　私一人が投票してもしなくても同じだから
1.2　今の政治を変えなくてもいいと思ったから
4.7　選挙結果が予想できる無風選挙であったから
17.9　選挙によって政治はよくならないと思ったから
3.5　今住んでいる所に選挙権がないから
6.7　その他（具体的に　　）
1.2　わからない
(2.3　無回答)

Ｑ10　あなたはどういう状況だったら投票に行こうと思いますか。<u>１つ選んで</u>番号に○をつけてください。

6.5　投票所が近かったら
0.3　投票所まで無料のバスなどが運行されたら
2.7　移動投票所が巡回してくれたら
34.5　駅やショッピングセンター・コンビニなどでも投票できたら
5.7　期日前投票が午後８時以降もできたら
21.6　その他（具体的に　　）
20.6　わからない
(8.0　無回答)

知事選挙についてお聞きします

【全員の方にお聞きします】

Ｑ11　あなたのお住まいの地域では４月７日に知事選挙が行われましたか。<u>１つ選んで</u>番号に○をつけてください。

n=1,712

42.5　行われた
35.1　行われなかった　→ Q18 へお進みください
20.4　わからない　→ Q18 へお進みください
(2.0　無回答)

Ｑ12　あなたは、今回の知事選についてどれくらい関心がありましたか。<u>１つ選んで</u>番号に○をつけてください。

n=728

23.2　非常に関心があった
41.9　多少は関心があった
25.3　あまり関心がなかった
6.3　全く関心がなかった
0.5　わからない
(2.7　無回答)

Ｑ13　あなたは、今回の知事選で投票に行きましたか。<u>１つ選んで</u>番号に○をつけてください。

71.2　投票に行った
26.6　投票に行かなかった　→ Q18 へお進みください
1.0　わからない　→ Q18 へお進みください
(1.2　無回答)

Ｑ14　知事選で投票したのはどういう気持ちからですか。あなたの気持ちに一番近いものを<u>１つ選んで</u>番号に○をつけてください。

n=518

18.1　当選させたい候補者がいたから
42.9　政治をよくするためには投票することが大事だから
32.2　投票するのは住民の義務だから
2.1　団体、地元、知り合い等に頼まれて
1.9　その他（具体的に　　）
1.2　わからない
(1.5　無回答)

Q15　知事選で、あなたはどのような政策課題を考慮しましたか。あてはまるものをいくつでも選んで番号に○をつけてください。

50.6　医療・介護
31.5　教育
43.4　景気・雇用
24.1　少子化対策
45.0　高齢化対策
23.7　災害対策
9.7　治安対策
12.0　地方議会の改革
19.7　地方自治のあり方
15.6　地方の行財政改革
9.3　中小企業対策
5.6　農林水産業の振興
4.4　社会資本整備
12.5　環境対策
11.0　原発・エネルギー
15.6　地方創生
9.7　国政の動向
2.5　その他（具体的に　　）
8.7　政策は考えなかった
2.1　わからない
(0.6　無回答)

Q16　あなたが知事選で投票する人を決めたのは、いつ頃でしたか。１つ選んで番号に○をつけてください。

32.0　選挙期間に入る前から（３月２０日以前）
33.8　候補者が出揃った時（３月２１日（木））
21.6　選挙期間中（投票日の前日まで）
10.4　投票日当日（４月７日（日））
0.8　わからない
(1.4　無回答)

Q17　知事選で、あなたは政党を重くみて投票しましたか、それとも候補者個人を重くみて投票しましたか。１つ選んで番号に○をつけてください。

26.4　政党を重くみて
47.7　候補者個人を重くみて
22.0　一概にいえない
2.7　わからない
(1.2　無回答)

↓
※Q18 へお進みください

市町村長選挙についてお聞きします

【全員の方にお聞きします】

Q18　あなたのお住まいの地域では４月７日に指定都市の市長選挙、または４月２１日に市町村長選挙が行われましたか。１つ選んで番号に○をつけてください。

n=1,712

30.9　行われた
44.9　行われなかった
21.6　わからない
（2.6　無回答）

（行われなかった・わからない → Q24 へお進みください）

Q19　あなたは今回の市町村長選について、どれくらい関心がありましたか。１つ選んで番号に○をつけてください。

n=529

24.6　非常に関心があった
39.9　多少は関心があった
27.4　あまり関心がなかった
5.3　全く関心がなかった
0.6　わからない
（2.3　無回答）

Q20　あなたは、今回の市町村長選で投票に行きましたか。１つ選んで番号に○をつけてください。

67.9　投票に行った
26.5　投票に行かなかった
3.0　無投票であった
0.6　わからない
（2.1　無回答）

（投票に行かなかった・無投票であった・わからない → Q24 へお進みください）

Q21　市町村長選で投票したのはどういう気持ちからですか。あなたの気持ちに一番近いものを１つ選んで番号に○をつけてください。

n=359

23.1　当選させたい候補者がいたから
40.7　政治をよくするためには投票することが大事だから
29.5　投票するのは住民の義務だから
2.8　団体、地元、知り合い等に頼まれて
1.4　その他（具体的に　　）
1.4　わからない
（1.1　無回答）

Q22　あなたが市町村長選で投票する人を決めたのは、いつ頃でしたか。１つ選んで番号に○をつけてください。

31.5　選挙期間に入る前から
32.9　候補者が出揃った時
22.6　選挙期間中（投票日の前日まで）
10.3　投票日当日
1.7　わからない
（1.1　無回答）

Q23　市町村長選で、あなたは政党を重くみて投票しましたか、それとも候補者個人を重くみて投票しましたか。１つ選んで番号に○をつけてください。

25.1　政党を重くみて
48.2　候補者個人を重くみて
22.3　一概にいえない
3.6　わからない
（0.8　無回答）

市町村議会議員選挙についてお聞きします

【全員の方にお聞きします】

Q24　あなたのお住まいの地域では４月７日に指定都市の市議会議員選挙、または４月２１日に市町村議会議員選挙が行われましたか。１つ選んで番号に○をつけてください。

n=1,712

- 51.9　行われた
- 23.4　行われなかった
- 22.6　わからない
- (2.1　無回答)

（23.4、22.6 → Q31 へお進みください）

Q25　あなたは、今回の市町村議選について、どれくらい関心がありましたか。１つ選んで番号に○をつけてください。

n=888

- 19.8　非常に関心があった
- 43.4　多少は関心があった
- 28.6　あまり関心がなかった
- 6.5　全く関心がなかった
- 0.5　わからない
- (1.2　無回答)

Q26　あなたは、今回の市町村議選で投票に行きましたか。１つ選んで番号に○をつけてください。

- 72.4　投票に行った
- 24.3　投票に行かなかった → Q30 へお進みください
- 1.7　無投票であった
- 0.7　わからない
- (0.9　無回答)

（1.7、0.7 → Q31 へお進みください）

Q27　市町村議選で投票したのはどういう気持ちからですか。あなたの気持ちに一番近いものを１つ選んで番号に○をつけてください。

n=643

- 29.7　当選させたい候補者がいたから
- 33.3　政治をよくするためには投票することが大事だから
- 28.6　投票するのは住民の義務だから
- 4.7　団体、地元、知り合い等に頼まれて
- 1.4　その他（具体的に　　）
- 1.1　わからない
- (1.2　無回答)

Q28　あなたが市町村議選で投票する人を決めたのは、いつ頃でしたか。１つ選んで番号に○をつけてください。

- 31.1　選挙期間に入る前から
- 31.4　候補者が出揃った時
- 22.4　選挙期間中（投票日の前日まで）
- 13.4　投票日当日
- 1.2　わからない
- (0.5　無回答)

Q29　市町村議選で、あなたは政党を重くみて投票しましたか、それとも候補者個人を重くみて投票しましたか。１つ選んで番号に○をつけてください。

- 28.8　政党を重くみて
- 49.0　候補者個人を重くみて
- 18.8　一概にいえない
- 2.8　わからない
- (0.6　無回答)

↓

※Q31 へお進みください

Q30　市町村議選で投票に行かなかったのはなぜですか。あてはまるものをいくつでも選んで番号に○をつけてください。

- 19.9　仕事があったから
- 11.6　重要な用事（仕事を除く）があったから
- 14.8　体調がすぐれなかったから
- 4.2　投票所が遠かったから
- 28.7　選挙にあまり関心がなかったから
- 24.1　政党の政策や候補者の人物像など、違いがよくわからなかったから
- 5.1　支持する政党の候補者がいなかったから
- 23.1　適当な候補者がいなかったから
- 9.7　私一人が投票してもしなくても同じだから
- 1.4　今の政治を変えなくてもいいと思ったから
- 4.6　選挙結果が予想できる無風選挙であったから
- 14.8　選挙によって政治はよくならないと思ったから
- 2.8　今住んでいる所に選挙権がないから
- 8.3　その他（具体的に　　）
- 0.5　わからない
- (4.2　無回答)

今回の統一地方選挙全般についてお聞きします

【全員の方にお聞きします】

Q31　今回の統一地方選挙では、道府県議選や市町村長選などに無投票当選がありますが、これについてあなたはどう思われますか。あなたの考えに一番近いものを１つ選んで番号に○をつけてください。

n=1,712

34.8　公職者（首長や議会議員）は投票で決めるのが本すじであるのに、投票なしに決まるのはおかしい

39.1　定数を超える候補者が立たないのだから、無投票になっても仕方がない

10.2　選挙のわずらわしさや、あとに対立が残ることや、また経費のことなどを考えると、無投票当選もよい

1.7　その他（具体的に　　）

12.0　わからない

(2.2　無回答)

Q32　あなたは今回の統一地方選挙で投票日より前に行われた下記の報道などを見たり聞いたりしましたか。見たり聞いたりしたものがあればすべて選んでＡ欄に○をつけてください。その中で役に立ったものがあれば、すべて選んでＢ欄に○をつけてください。

A：n=1,712 B：n=1,358	A 見たり聞いたりしたもの	B 役に立ったもの
テレビの選挙関係報道 （解説・評論を含む）	63.1	37.5
ラジオの選挙関係報道 （解説・評論を含む）	7.7	4.8
新聞の選挙関係報道 （解説・評論を含む）	49.6	38.7
週刊誌・雑誌の選挙関係報道 （解説・評論を含む）	4.8	1.8
インターネット上の 選挙関係情報	19.3	12.2
この中のどれも 見聞きしない	11.3	
役に立ったものはない		10.3
わからない	6.0	7.9
(無回答)	3.4	19.0

Q33　今回の統一地方選挙で、総務省や都道府県・市町村の選挙管理委員会及び明るい選挙推進協議会等が「投票に参加しましょう」という呼びかけを行いましたが、下記の中で見たり聞いたりしたものがありますか。あればすべて選んで番号に○をつけてください。

n=1,712

37.9　新聞広告

42.0　テレビスポット広告

4.9　ラジオスポット広告

8.4　交通広告（車内・駅・バス）

2.4　雑誌広告（フリーペーパーを含む）

22.1　啓発ポスター・チラシ

25.4　国や都道府県、市町村の広報紙

14.4　都道府県・市町村の広報車
（候補者の選挙運動用自動車は含まない）

8.2　街頭・イベントなどでの啓発キャンペーン

12.7　立看板、広告塔、たれ幕、アドバルーン、電光掲示板、大型映像広告

1.6　デパート、ショッピングセンター、遊園地などでのアナウンス

0.6　銀行などのＡＴＭ

0.9　コンビニのレジ画面

1.6　有線放送

3.5　国、都道府県、市町村のホームページ、ＳＮＳ（ツイッター、フェイスブック、ＬＩＮＥ）

6.4　インターネット上での広告
（バナー、動画広告等）

0.9　その他（具体的に　　）

15.3　見聞きしなかった

7.2　わからない

(2.4　無回答)

Q34　あなたは、今回の統一地方選挙の候補者の後援会に加入されていますか。１つ選んで番号に○をつけてください。

8.4　加入している

85.3　加入していない

3.0　わからない

(3.3　無回答)

Q35　あなたは今回の統一地方選挙で、下記の選挙運動を見たり聞いたりしましたか。見たり聞いたりしたものがあれば<u>すべて選んでＡ欄に</u>○をつけてください。その中で役に立ったものがあれば、<u>すべて選んでＢ欄に</u>○をつけてください。

A：n=1,712 B：n=1,403	A 見たり聞いたりしたもの	B 役に立ったもの
演説会	9.8	5.6
街頭演説	31.5	10.0
連呼	25.5	2.0
候補者の新聞広告（知事選のみ）	17.7	9.8
候補者の葉書	19.3	5.3
ビラ（マニフェスト）（町村議選以外）	16.9	7.1
候補者のポスター	51.5	12.3
テレビ政見放送（経歴放送を含む、知事選のみ）	17.3	10.3
ラジオ政見放送（経歴放送を含む、知事選のみ）	2.0	1.1
選挙公報	22.4	15.5
合同個人演説会（公開討論会を含む）	2.5	1.9
電話による勧誘	8.1	0.8
インターネットによる選挙運動（候補者のホームページ、ブログ、ＳＮＳ等）	5.3	4.4
この中のどれも見聞きしない	9.6	
役に立ったものはない		15.3
わからない	5.6	7.9
(無回答)	2.9	29.3

地方選挙等についてお聞きします

Q36　地方選挙について「候補者の人物や政見がよくわからないために、誰に投票したらよいか決めるのに困る」という声があります。最近の地方選挙で、あなたはそう感じたことがありますか。<u>１つ選んで</u>番号に○をつけてください。

n=1,712

- 46.9　ある
- 32.6　ない　→ Q37 へお進みください
- 12.1　わからない　→ Q37 へお進みください
- (8.4　無回答)

Q36ＳＱ　どの選挙でしたか。あてはまるものを<u>いくつでも選んで</u>番号に○をつけてください。

n=803

- 36.0　知事選挙
- 64.1　道府県議会議員選挙
- 31.1　市町村長選挙
- 55.3　市町村議会議員選挙
- 10.8　わからない
- (1.1　無回答)

【全員の方にお聞きします】

Q37　あなたはふだん、選挙の投票について、下記の中のどれに近い考えを持っていますか。<u>１つ選んで</u>番号に○をつけてください。

n=1,712

- 31.3　投票することは国民の義務である
- 30.1　投票することは国民の権利であるが、棄権すべきではない
- 33.1　投票する、しないは個人の自由である
- 3.2　わからない
- (2.3　無回答)

Q38　道府県議会議員に対して、あなたはどのような役割を望まれていますか。あなたの考えに一番近いものを１つ選んで番号に○をつけてください。

13.0　地域の面倒をこまめにみる
2.5　対立する意見や利害を調整する
0.6　支援団体（地域や団体など）の利益を考える
41.4　地域の発展を考える
28.8　県（道府）全体の将来を考える
0.9　その他（具体的に　　）
7.7　特に期待するものはない
3.4　わからない
(1.8　無回答)

Q39　では、市町村議会議員に対しては、あなたはどのような役割を望まれていますか。あなたの考えに一番近いものを１つ選んで番号に○をつけてください。

19.5　地域の面倒をこまめにみる
1.5　対立する意見や利害を調整する
0.4　支援団体（地域や団体など）の利益を考える
30.7　地域の発展を考える
37.5　市町村全体の将来を考える
0.7　その他（具体的に　　）
6.1　特に期待するものはない
2.5　わからない
(1.1　無回答)

政治・選挙等についてお聞きします

Q40　下記の選挙の中で、あなたが特に関心をお持ちになる選挙を２つ選んで番号に○をつけてください。

51.7　衆議院議員選挙
24.3　参議院議員選挙
26.5　知事選挙
6.9　道府県議会議員選挙
27.0　市町村長選挙
20.0　市町村議会議員選挙
12.1　どれも関心を持たない
5.5　わからない
(1.1　無回答)

Q41　あなたは日本の政治を全体として考えた場合、どういう感じをお持ちになりますか。１つ選んで番号に○をつけてください。

1.3　非常によい
22.4　まあよい
42.5　あまりよくない
14.4　非常に悪い
14.2　どちらともいえない
4.6　わからない
(0.6　無回答)

Q42　あなたのお住まいの道府県の政治を全体として考えた場合、どういう感じをお持ちになりますか。１つ選んで番号に○をつけてください。

1.3　非常によい
37.1　まあよい
27.5　あまりよくない
4.8　非常に悪い
18.5　どちらともいえない
9.8　わからない
(1.0　無回答)

Q43　あなたのお住まいの市町村の政治を全体として考えた場合、どういう感じをお持ちになりますか。１つ選んで番号に○をつけてください。

1.6　非常によい
35.3　まあよい
28.4　あまりよくない
6.5　非常に悪い
18.0　どちらともいえない
9.1　わからない
(1.1　無回答)

Q44　あなたは現在のご自分の生活にどの程度満足していますか。１つ選んで番号に○をつけてください。

2.6　大いに満足している
52.0　だいたい満足している
31.4　やや不満足である
8.8　大いに不満足である
4.2　わからない
(1.1　無回答)

Q45　あなたはふだん国や地方の政治についてどの程度関心を持っていますか。１つ選んで番号に○をつけてください。

13.4　非常に関心を持っている
59.6　多少は関心を持っている
19.8　ほとんど関心を持っていない
3.2　全く関心を持っていない
2.9　わからない
(1.0　無回答)

Q46　投票日当日の投票時間は原則午後８時までとなっていますが、最近、投票時間を繰り上げて短くしているところもあります。あなたの投票区の投票時間は何時までででしたか。１つ選んで番号に○をつけてください。

3.8　午後６時以前
8.2　午後７時
56.1　午後８時
0.4　その他（具体的に　　）
27.5　わからない
(4.1　無回答)

→ Q47 へお進みください

Q46ＳＱ　あなたは、現在の投票時間についてどうお感じになられていますか。１つ選んで番号に○をつけてください。

n=205
79.5　今のままでよい
10.7　もっと早く終了してもいい
7.3　もっと遅くまで投票できるようにした方がよい
－　その他（具体的に　　）
1.0　わからない
(1.5　無回答)

【全員の方にお聞きします】

Q47　あなたのご自宅から投票所に行くのには、何分くらいかかりますか。１つ選んで番号に○をつけてください。

n=1,712
35.0　５分未満
45.2　１０分未満
13.8　２０分未満
2.5　２０分以上
2.9　わからない
(0.8　無回答)

Q48　あなたの投票所は以前に比べ遠くなりましたか、近くになりましたか。１つ選んで番号に○をつけてください。

5.7　遠くなった
80.5　変わらない
5.5　近くなった
7.4　わからない
(0.8　無回答)

Q49　きれいな選挙の実現や投票率の向上のために明るい選挙推進運動が行われています。都道府県や市町村の選挙管理委員会と協力してこの運動を行っている、「明るい選挙推進協議会」や「白ばら会」があることをご存知ですか。１つ選んで番号に○をつけてください。

10.8　知っている
81.4　知らない
7.1　わからない
(0.8　無回答)

Q50　政治家が選挙区内の人に寄附をすることは禁止されており、原則として罰則の対象となります。あなたはこのことをご存知でしたか。１つ選んで番号に○をつけてください。

89.0　知っていた
6.7　知らなかった
3.6　わからない
(0.6　無回答)

Q51　政治家が下記のものを選挙区内の人に贈ることは、罰則をもって禁止されている寄附にあたると思いますか。あてはまるものをいくつでも選んで番号に○をつけてください。

76.3　お歳暮やお中元
68.7　入学祝、卒業祝
19.2　政治家本人が自ら出席する場合の結婚祝
37.5　葬式の花輪、供花
37.3　秘書等が代理で出席する場合の葬式の香典
47.8　落成式、開店祝の花輪
39.0　秘書等が代理で出席する場合の結婚祝
49.3　お祭りへの寄附や差し入れ
50.3　地域の運動会やスポーツ大会への飲食物の差し入れ
57.7　町内会の集会や旅行などの催し物への寸志や飲食物の差し入れ
17.8　政治家本人が自ら出席する場合の葬式の香典
35.7　病気見舞
14.9　わからない
(2.0　無回答)

Q52　憲法改正のためには、国民が賛否を投票することが必要となります(国民投票制度)が、あなたはこの制度を知っていますか。１つ選んで番号に○をつけてください。

10.8　よく知っている
32.1　だいたい内容を知っている
38.4　内容は知らないが言葉は聞いたことがある
16.9　知らない
(1.8　無回答)

Q53　昨年 5 月に、衆議院、参議院及び地方議会の選挙において、男女の候補者の数ができる限り均等となることを目指すことなどを基本原則とした「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」が、公布・施行されましたが、あなたはこのことを知っていますか。
<u>1 つ選んで</u>番号に○をつけてください。

2.9　よく知っている
23.0　だいたい内容を知っている
32.8　内容は知らないが言葉は聞いたことがある
37.8　知らない ――――→ Q54 へお進みください
(3.5　無回答)

Q53ＳＱ　政治分野における男女共同参画の推進に関する法律は、女性議員を増やすためにどの程度効果的だと思いますか。
<u>1 つ選んで</u>番号に○をつけてください。

n=444
34.2　努力義務なので、あまり効果的ではない
60.1　多少の効果はあると思う
3.8　かなり効果的である
(1.8　無回答)

↓

Q54　日本で女性議員が少ないのはなぜだと思われますか。<u>1 つ選んで</u>番号に○をつけてください。

n=1,712
8.5　政治に関心のある女性が少ないから
16.0　政治家という職業に魅力を感じる女性が少ないから
32.0　政治活動は家庭と両立しにくいから
23.0　政党が本気で女性を発掘しようとしないから
13.0　有権者が男性の方を政治家としてふさわしいと思っているから
4.0　その他（　　）
(3.6　無回答)

Q55　あなたはふだん何党を支持していますか。
<u>1 つ選んで</u>番号に○をつけてください。

33.6　自由民主党
8.6　立憲民主党
1.1　国民民主党
3.5　公明党
2.3　日本共産党
2.0　日本維新の会
2.6　大阪維新の会
0.1　希望の党
0.4　社会民主党
0.5　その他の党(具体的に　　)
36.9　支持する政党はない
6.6　わからない
(1.8　無回答)

Q56　明るい選挙推進運動のシンボルキャラクター「選挙のめいすいくん」(封筒の表に記載されています) をあなたは見たことがありますか。
<u>1 つ選んで</u>番号に○をつけてください。

11.8　ある
75.6　ない
11.1　わからない
(1.5　無回答)

【全員の方にお聞きします】

Ｆ１　あなたは男性ですか、女性ですか。

50.1　男性

48.8　女性

（**1.1**　無回答）

Ｆ２　あなたのお年は満でおいくつですか。
年齢をお書きください。

□歳

1.3　18・19 歳

8.7　20～29 歳　**12.3**　30～39 歳

18.0　40～49 歳　**16.4**　50～59 歳

17.1　60～69 歳　**19.4**　70～79 歳

5.4　80 歳以上

（**1.3**　無回答）

Ｆ３　あなたが最後に在籍した（又は現在在籍している）学校を、下記の中から１つ選んで番号に○をつけてください。

8.1　小学校・中学校卒（高等小学校を含む）

40.4　高校卒（旧制中学校を含む）

20.3　短大・高専・専修学校卒

28.9　大学・大学院卒（旧制高校、旧制専門学校を含む）

0.7　わからない

（**1.6**　無回答）

Ｆ４　あなたの職業についてお聞きします。あなたのお仕事は下記のどれにあてはまりますか。
１つ選んで番号に○をつけてください。

50.4　勤め

8.2　自営業主、自由業者

1.1　家族従業

3.3　学生

16.1　主婦　→ Ｆ５へお進みください

17.7　無職

（**3.2**　無回答）

Ｆ４ＳＱ１ あなたの職業は下記のように分類した場合、どれにあたりますか。
１つ選んで番号に○をつけてください。

n=1,023

17.2　経営者・役員・管理職

48.1　正社員・正職員

1.4　派遣社員

27.9　パート・アルバイト・契約・臨時・嘱託

3.7　その他

（**1.8**　無回答）

↓

※Ｆ４ＳＱ２へお進みください

【Ｆ４ＳＱ１に回答された方に
引き続きお聞きします。】

Ｆ４ＳＱ２　下記のように分類した場合、あなたの職業はどれにあたりますか。
１つ選んで番号に○をつけてください。

2.6　農・林・水産に関わる仕事
（農作物生産者、家畜飼養、森林培養・伐採、水産物養殖・漁獲など）

1.8　保安的仕事
（警察官、消防官、自衛官、警備員など）

3.9　運輸・通信的仕事
（トラック・タクシー運転手、船員、郵便配達、通信士など）

18.7　製造業的仕事
（製品製造・組み立て、自動車整備、建設作業員、大工、電気工事、農水産物加工など）

26.5　販売・サービス的仕事
（小売・卸売店主・店員、不動産売買、保険外交、外勤のセールス、理・美容師、コック・料理人、ウェイター・ウェイトレス、客室乗務員など）

24.8　専門・技術的仕事
（医師、看護師、弁護士、教師、技術者、デザイナーなど専門的知識・技術を要するもの）

15.8　事務的仕事
（企業・官公庁における一般事務、経理、内勤の仕事など）

3.2　その他
（具体的に　　）

（**2.6**　無回答）

↓

※Ｆ５へお進みください

【全員の方にお聞きします】

Ｆ５　あなたは、お住まいの市町村に何年くらい住んでいますか。１つ選んで番号に○をつけてください。

n=1,712

25.9　生まれてからずっと
43.5　２０年以上（生まれてからずっとを除く）
14.4　１０年以上
9.1　３年以上
5.8　３年未満
0.4　わからない
（1.0　無回答）

Ｆ６　あなたのご家族は、下記のように分類した場合どれにあたりますか。１つ選んで番号に○をつけてください。

12.7　１人世帯
31.7　一世代世帯（夫婦だけ）
43.9　二世代世帯
7.0　三世代世帯
2.5　その他の世帯
1.3　わからない
（1.0　無回答）

Ｆ７　あなたは主に何を使ってインターネットに接続していますか。１つ選んで番号に○をつけてください。

21.3　パソコン
51.1　スマートフォン
4.2　タブレット
19.7　インターネットは使わない
（3.7　無回答）

↓

※Ｆ８へお進みください

Ｆ８　あなたは、下記のような団体に加入していますか。あればいくつでも選んで番号に○をつけてください。

34.4　自治会
1.5　婦人会
1.1　青年団・消防団
4.2　老人クラブ（会）
7.0　ＰＴＡ
2.6　農協その他の農林漁業団体
6.3　労働組合
1.2　商工業関係の経済団体
3.2　宗教団体
14.8　同好会・趣味のグループ
0.9　住民運動・消費者運動・市民運動の団体
2.2　ＮＰＯ・地域づくり団体
12.1　同窓会
2.1　その他（具体的に　　）
38.8　どれにも加入していない
2.7　わからない
（2.3　無回答）

40 歳以上の方はここまでです。
18-19 歳、20 歳代、30 歳代の方→Ｆ９へ

【18-19 歳、20 歳代、30 歳代の方にお聞きします】

Ｆ９　あなたは、小学校、中学校、高校で選挙管理委員会の職員など外部講師による選挙に関する出前授業（模擬投票含む）を受けたことがありますか。１つ選んで番号に○をつけてください。

n=382

9.4　受けたことがある
67.8　受けたことはない
5.5　外部講師ではなく、先生から受けた
16.5　わからない
（0.8　無回答）

【調査票の集計等について】

① 本調査における調査票は以下の諸ルールに基づき、集計した。

ア 全体の 3 分の 1 以上の回答がない調査票は集計には使用しない（有効回答票としない）。

イ 単一回答なのに、複数回答があった場合は、回答番号をランダムに選んだ。

ウ 選択肢「わからない」と他の選択肢に回答があった場合は、「わからない」以外の選択肢を採用した。

エ 投票率が低い理由を 1 つ選ぶ質問や支持政党を 1 つ選ぶ質問で複数回答があった場合はランダムに選ぶのではなく、「無回答」とした。

オ 回答する必要のない質問に回答があった場合は無回答とした。

カ Q32 および Q35 でのＡ「見聞きした」とＢ「役に立った」の関係で、Ｂに回答があり、対応するＡに回答がない場合、Ａを回答ありとした。またＡに回答がなく、Ｂは「役に立ったものはない」にのみ回答がある場合は、Ａ、Ｂとも「わからない」とした。

② 調査結果（集計結果）は、原則として小数点第１位（第２位を四捨五入）までの百分率で表示している。

③ 回答を複数答える質問の場合は、構成比が 100.0％を超えることがある。

Ⅳ　はじめに

平成 31 年４月７日に道府県と政令指定都市において、また４月 21 日には市区町村において、第 19 回統一地方選挙（以下、統一地方選挙を「統一選」という。）が実施された。

昭和 22 年４月の第１回地方選挙では、戦後の新しい地方自治制度の発足に伴い、全ての地方公共団体の長と議員の選挙が全国一斉に実施され、その後、4 年ごとに統一選が実施されてきたが、市区町村の合併、長の死亡や辞職、議会の解散などにより、統一選で行われる選挙の全地方選挙に占める割合（統一率）は下がってきている。特に第 16 回統一選(平 19)は、全国の市町村において合併が大幅に進展し、これに伴う設置選挙が行われたこともあり、統一率は、前回（第 15 回統一選時（平 15)）の 36.3%から 6.5 ポイント減少して 29.8%となった。また第 17 回統一選(平 23)では、東日本大震災の影響でさらに 2.4 ポイント減り、27.4%となった。そして今回は、全国 1,788 の地方公共団体のうち 13.1%に当たる 235 団体で首長選挙が､41.8%に当たる 747 団体で議員選挙が実施され、統一選の執行件数（無投票を含む）は、前回(第 18 回)の 984 件から 982 件となり、統一率は 27.5%と前回とほぼ同じであった。

４月７日に行われた知事選挙は、北海道、神奈川県、福井県、三重県、奈良県、鳥取県、島根県、徳島県、福岡県、大分県に大阪府が加わり、11 道府県で行われた。道府県議会議員選挙は、前回と同様に岩手県、宮城県、福島県、茨城県、東京都及び沖縄県の６都県を除く 41 道府県、指定都市は、20 市中、市長選挙は札幌市、相模原市、静岡市、浜松市、広島市に大阪市が加わり６市、議会議員選挙は前回と同じく、仙台市、静岡市、北九州市以外の 17 市で行われた。

４月 26 日に行われた選挙は、一般市 772 市のうち市長選挙が 86、議会議員選挙が 294、23 特別区のうち区長選挙が 11、議員選挙が 20、926 町村のうち町村長選挙が 121、議員選挙が 375 であった。

今回の統一選では、前年５月に施行された「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」により、女性の候補者数、当選者数も注目された。また統一選直前の 3 月に施行された改正公職選挙法により都道府県及び市区の議会議員選挙で選挙運動用のビラの頒布ができることとなった。

表１　地方公共団体数及び統一地方選挙執行件数

		第19回（H31）	第18回（H27）	増　減	執行率
都道府県	団体数	47	47	0	
	知　事	11	10	1	23.4%
	議　員	41	41	0	87.2%
指定都市	団体数	20	20	0	
	市　長	6	5	1	30.0%
	議　員	17	17	0	85.0%
市	団体数	772	770	2	
	市　長	86	89	-3	11.1%
	議　員	294	295	-1	38.1%
特別区	団体数	23	23	0	
	区　長	11	11	0	47.8%
	議　員	20	21	-1	87.0%
町　村	団体数	926	928	-2	
	町村長	121	122	-1	13.1%
	議　員	375	373	2	40.5%
合　計	団体数	1788	1788	0	
	長	235	237	-2	13.1%
	議　員	747	747	0	41.8%
	合計（長＋議員）	982	984	-2	27.5%

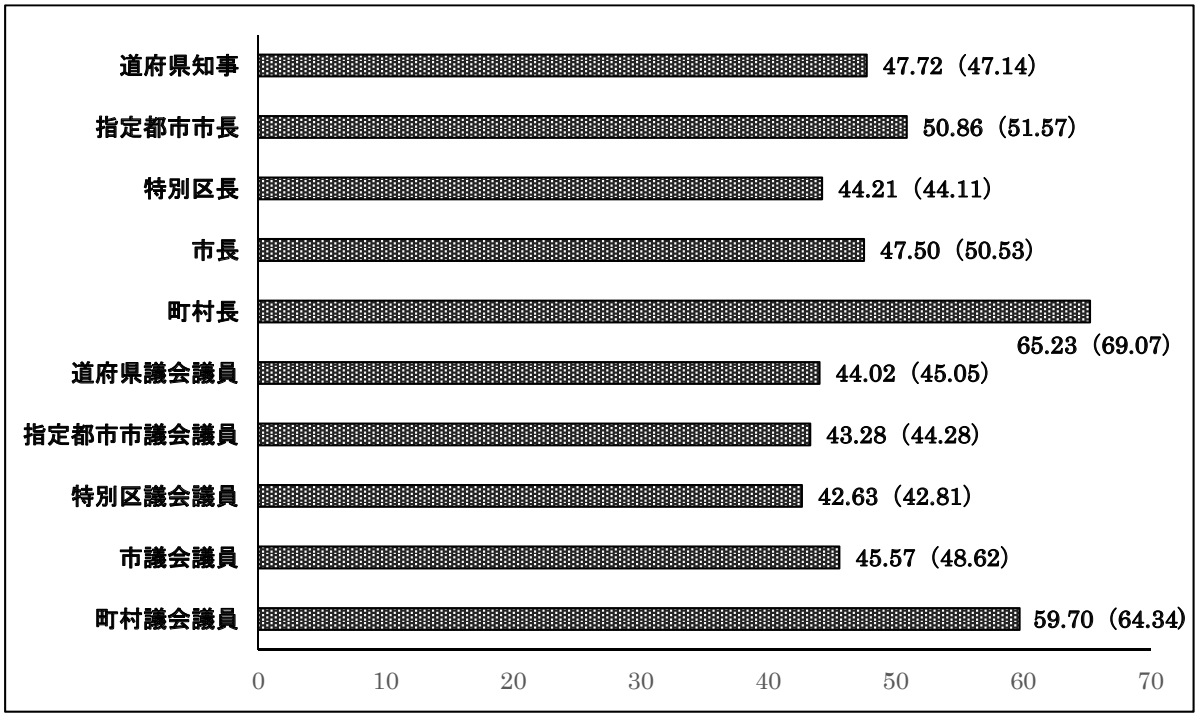
Ⅴ　投票率・選挙競争率

（１）投票率

まず、今回の統一選における投票率[1]を選挙の種類別に見てみると、図１のとおりで、最も高かったのは町村長選挙の 65.23％、次いで町村議選挙の 59.70％、反対に低かったのは、特別区議選挙（42.63％）、指定都市市議選挙（43.28％）であった。これらはこれまでの傾向と変わりはない。

過去の投票率と対比すると（図 2～4）、都道府県知事選挙以外、全ての種類の選挙で前回を下回った。統一選の投票率はこれまでも長期低落傾向を続けてきたが、今回、都道府県知事選挙、都道府県議選挙、市区町村長選挙、市区町村議選挙のいずれも昭和 22 年の第１回統一選以降、初めて５割を割り込んだ（図 2）。

図１　第 19 回統一選の投票率



＊（　）内は前回の投票率

1 各選挙実施団体の投票者数の合計を、同団体の選挙当日有権者数の合計で割って算出

図 2 統一選における投票率（首長・議員）の推移

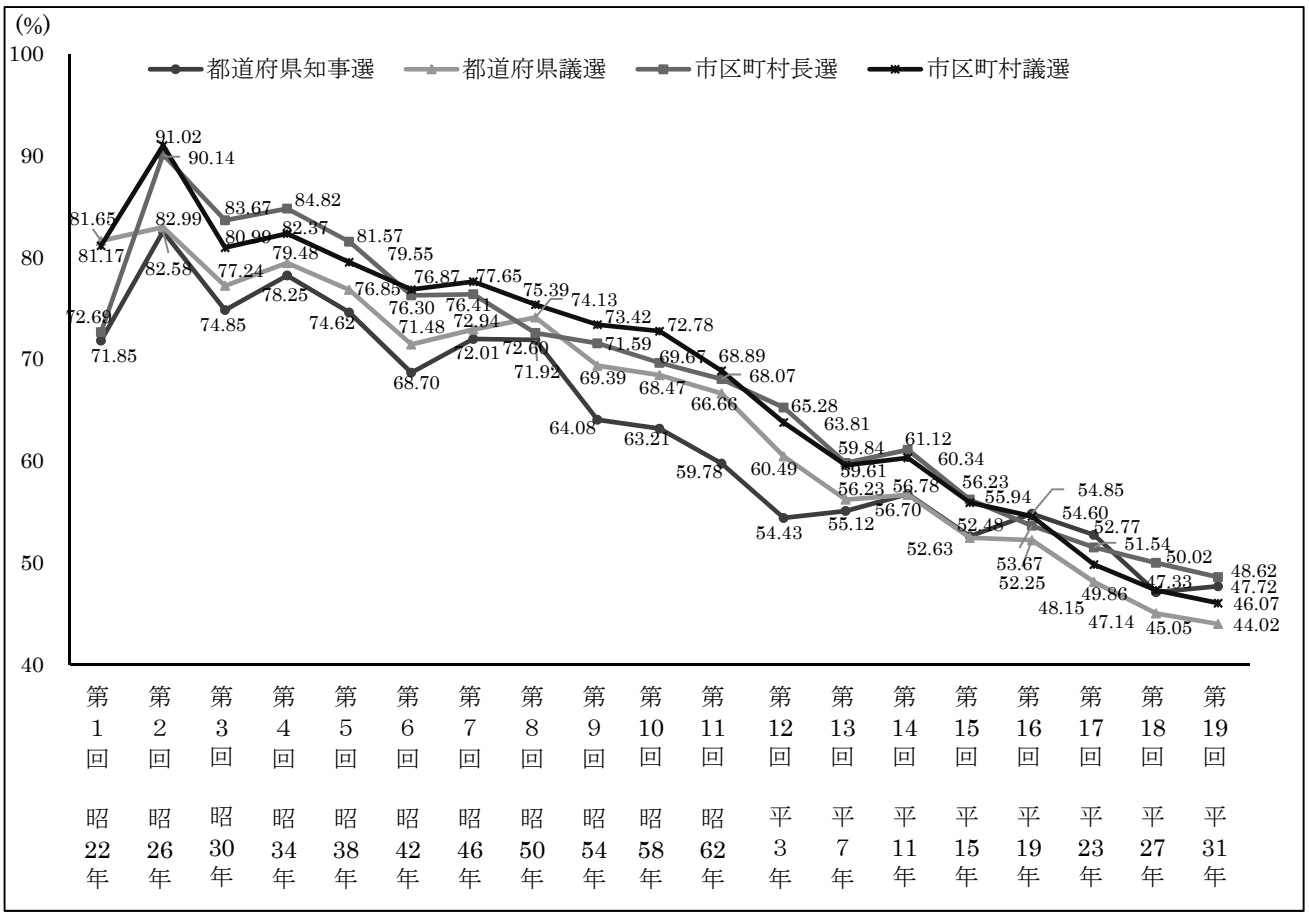


図 3 統一選における投票率（首長選挙）の推移

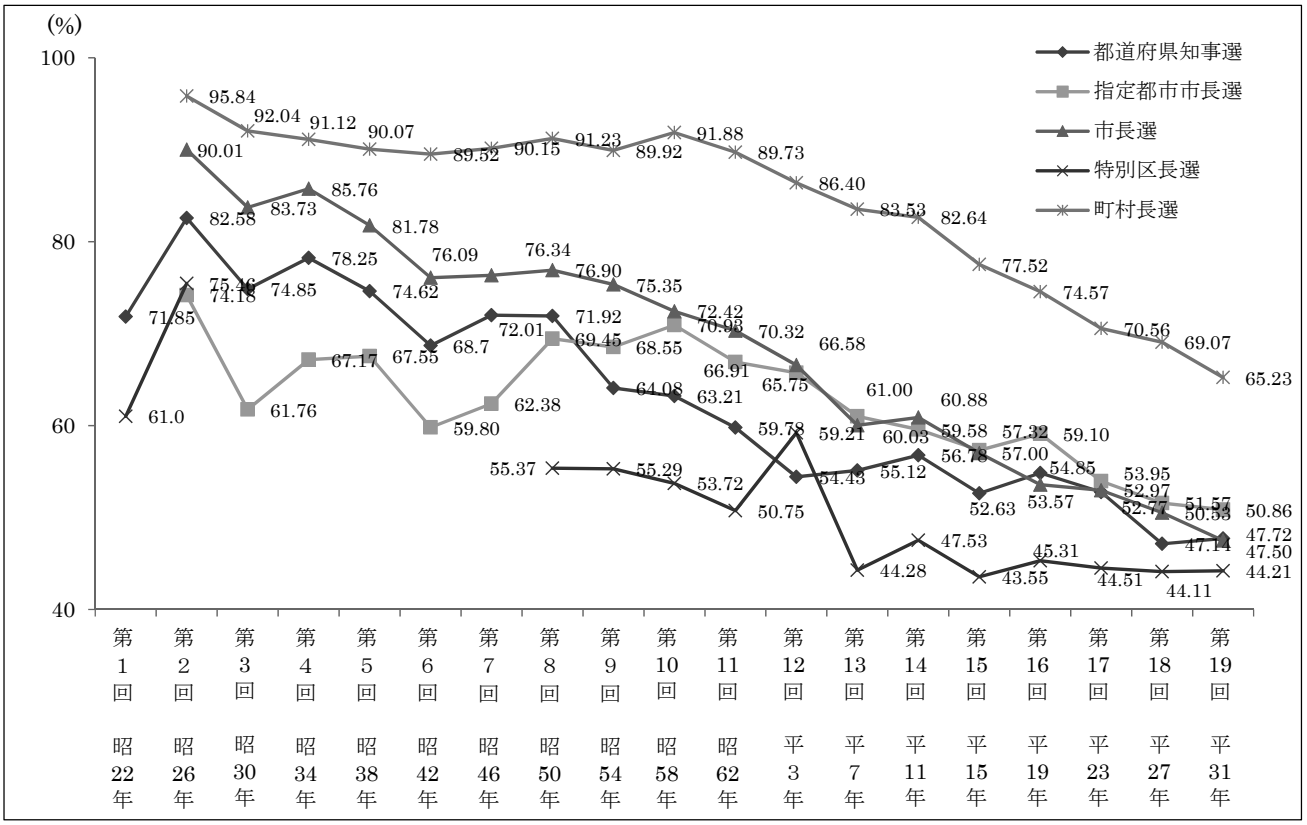
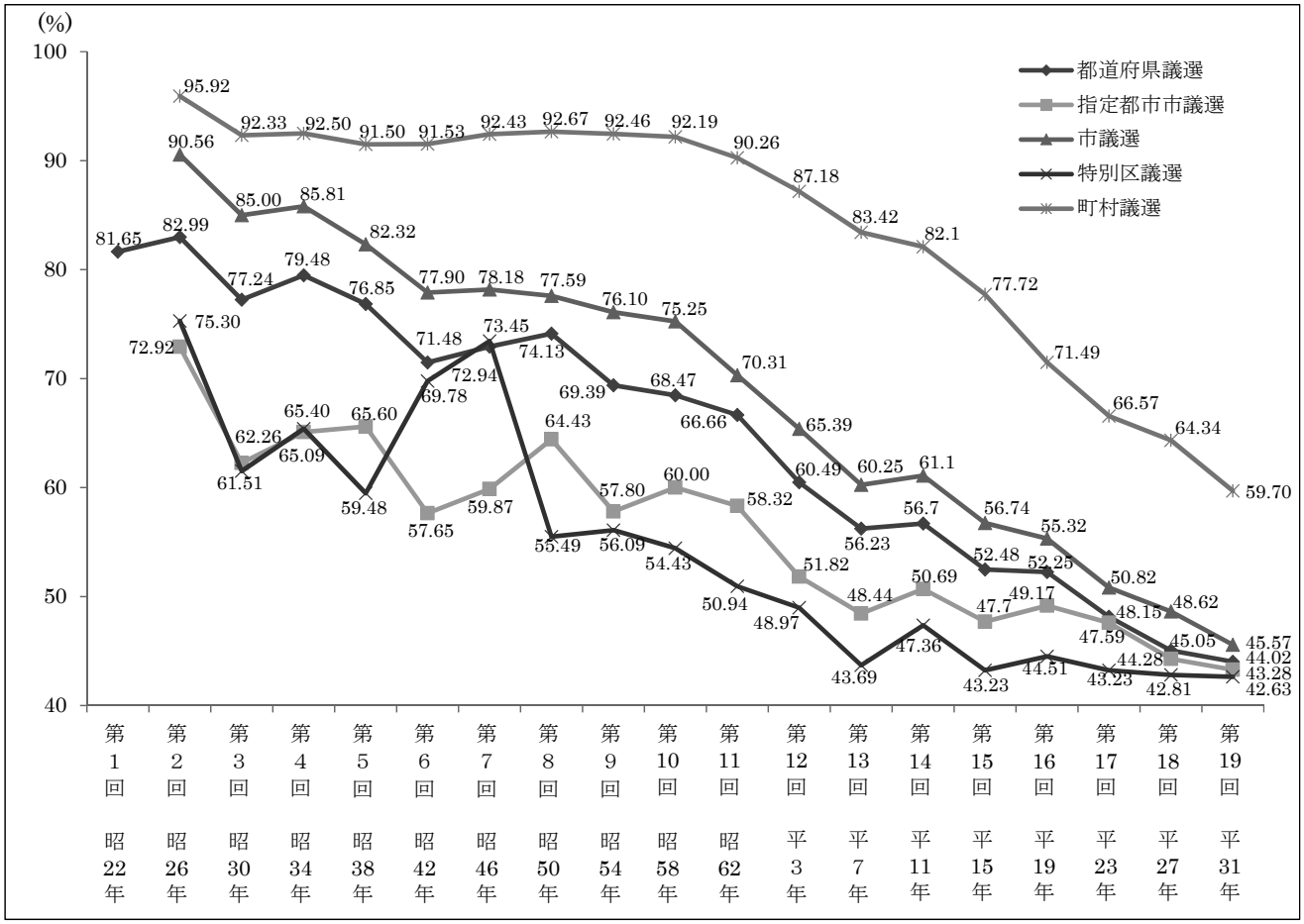


図 4 統一選における投票率(議員選挙)の推移



（２）選挙競争率

今回の統一選における平均競争率（立候補者数を改選定数で割った値）を選挙の種類別に見ると（表 2)、全体的には前回（1.26）とほぼ同じ競争率（1.23）であった。うち、都道府県知事選挙、町村長選挙以外の選挙の競争率は下がっている。

無投票当選率は、今回は 12.4%と前回(11.4%)より 1.0 ポイント上昇した。なかでも都道府県議選挙は前回の 21.9%から 26.9%へ大幅に上昇しているほか、特別区議選挙を除き、市長選挙、町村長選挙、指定都市市議選挙、町村議選挙も前回を上回った。人口減少と高齢化が進む地域に端を発した地方議員のなり手不足は、今回の統一選のトピックの一つとしてたびたび報道されていた。

表 2 競争率

		改選定数	立候補者数	競争率（前回）	無投票当選者数	無投票当選率（前回）
首長選挙	都道府県知事	11	30	2.73(2.50)	0	0.0%(0.0%)
	指定都市市長	6	17	2.83(3.40)	0	0.0%(0.0%)
	特別区長	11	31	2.82(2.91)	0	0.0%(0.0%)
	市長	86	161	1.87(2.01)	27	31.4%(30.3%)
	町村長	121	208	1.72(1.63)	55	45.5%(43.4%)
議員選挙	都道府県議会	2,277	3,062	1.34(1.43)	612	26.9%(21.9%)
	指定都市市議会	1,012	1,396	1.38(1.44)	34	3.4%(1.7%)
	特別区議会	785	1,078	1.37(1.39)	0	0.0%(0.0%)
	市議会	6,726	8,063	1.20(1.22)	182	2.7%(3.6%)
	町村議会	4,233	4,775	1.13(1.13)	988	23.3%(21.8%)
合計	首長選挙	235	447	1.90(1.91)	82	34.9%(33.8%)
	議員選挙	15,033	18,374	1.22(1.25)	1,816	12.1%(11.1%)
	合 計	15,268	18,821	1.23(1.26)	1,898	12.4%(11.4%)

Ⅵ　調査結果の概要

以下は本調査に基づく分析結果である。

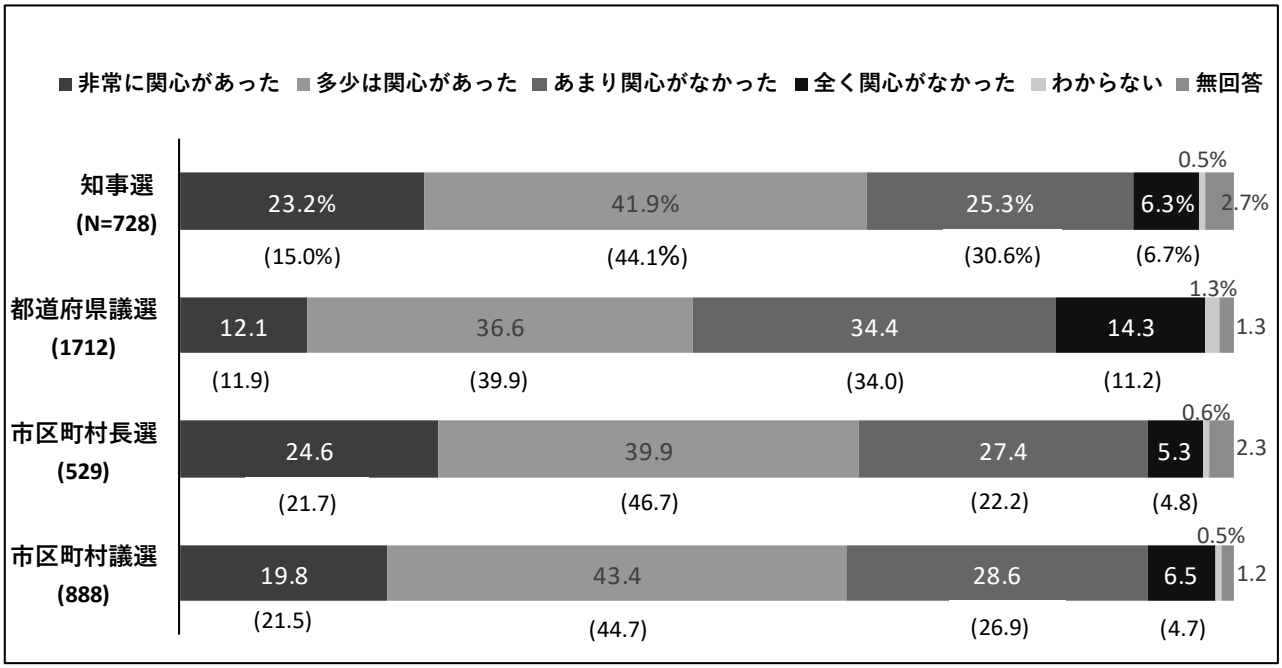
分析ではこれまで尋ねてきた質問の回答結果を時系列にグラフなどで表しているが、第 17 回以前は面接調査法、前回から郵送調査法と調査方法が変わっているため、この点を特に留意して見ていく必要がある。

1　選挙関心度

本調査では、今回の統一選で行われた知事選挙、都道府県議選挙、市区町村長選挙、市区町村議選挙について、その選挙が行われた地域の対象者に対してそれぞれの選挙への関心度を尋ねている。図 5 はその結果を選挙の種類別に対比したものである。

「非常に関心があった」という回答が最も多いのは、市区町村長選挙の 24.6%（前回は 21.7%）、次いで知事選挙の 23.2%（前回は 15.0%）、市区町村議選挙の 19.8%（前回は 21.5%）である。「非常に関心があった」と「多少は関心があった」をあわせてみると、知事選挙の 65.1%（前回は 59.1%）が最も多く、次いで市区町村長選挙の 64.5%（前回は 68.4%）、市区町村議選挙の 63.2%（前回は 66.2%）と続く。都道府県議選挙に関しては、「非常に関心があった」が 12.1%（前回は 11.9%）、「多少は関心があった」が 36.6%（前回は 39.9%）、合計 48.7%（前回は 51.8%）で他の選挙に比べて低く、逆に「あまり関心がなかった」、「全く関心がなかった」という回答が他の選挙に比べて多い。前回に比べると、知事選挙以外の選挙への関心度は低下している。前回の統一選では東京都知事選挙が統一選から外れたことなどから、知事選挙への関心が大きく低下したが、今回は前回より 6 ポイント高くなっている。

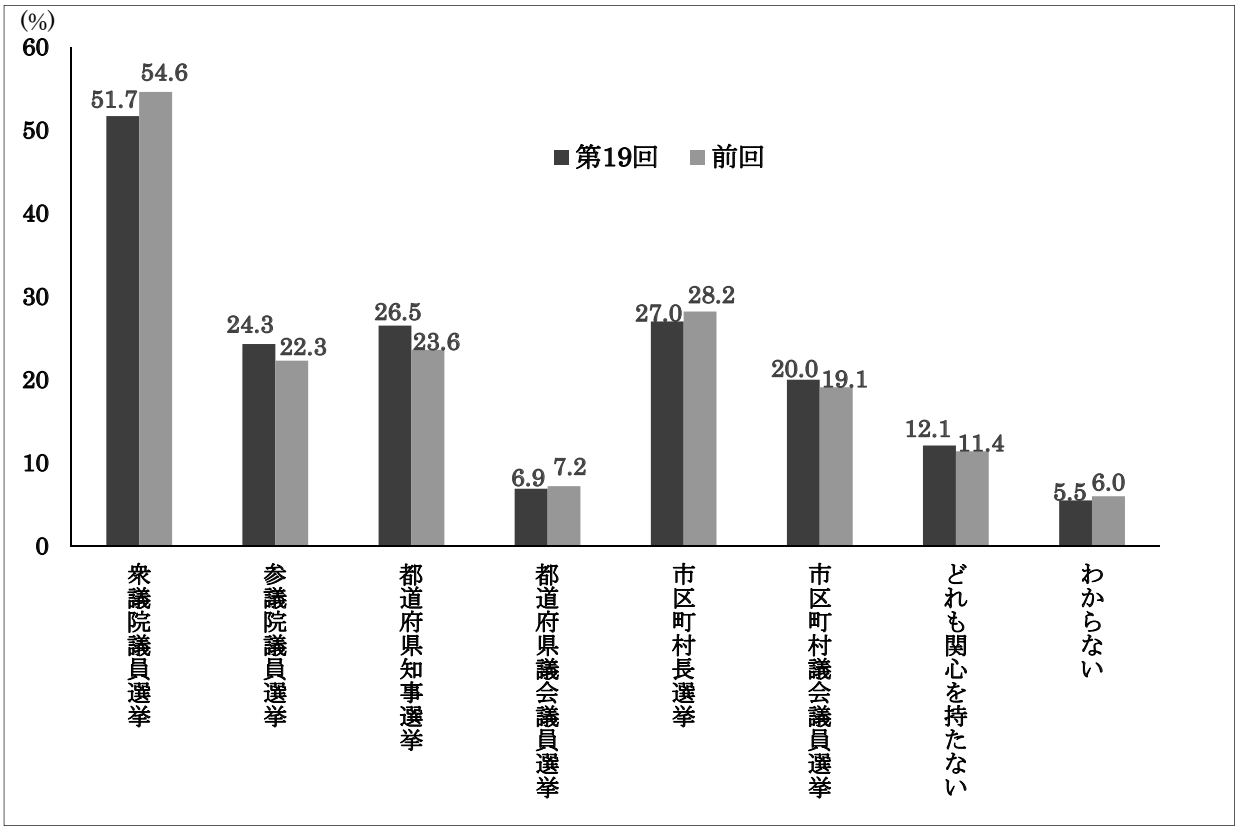
図 5　第 19 回統一選挙への関心度



＊（　）内は前回の関心度

次に、国政選挙も含めて、「下記（６つ）の選挙の中で、あなたが特に関心をお持ちになる選挙を２つ選んでください」という質問を行っている。その回答は図 6 のとおりである。最も関心が高いのは衆議院議員選挙で、過半数の人（51.7%（前回 54.6%））が関心を持っていると回答している。同じ国政選挙でも、参議院議員選挙に言及した人は２割を超えた程度（24.3%（前回 22.3%））であった。地方選挙に関しては、これまでと同じく、都道府県に比べ市区町村の選挙の関心が高く、また、議員選挙に比べ首長選挙の関心が高いという傾向となっている。

図 6 関心のある選挙（前回比）



２　投票 - 棄権の選択

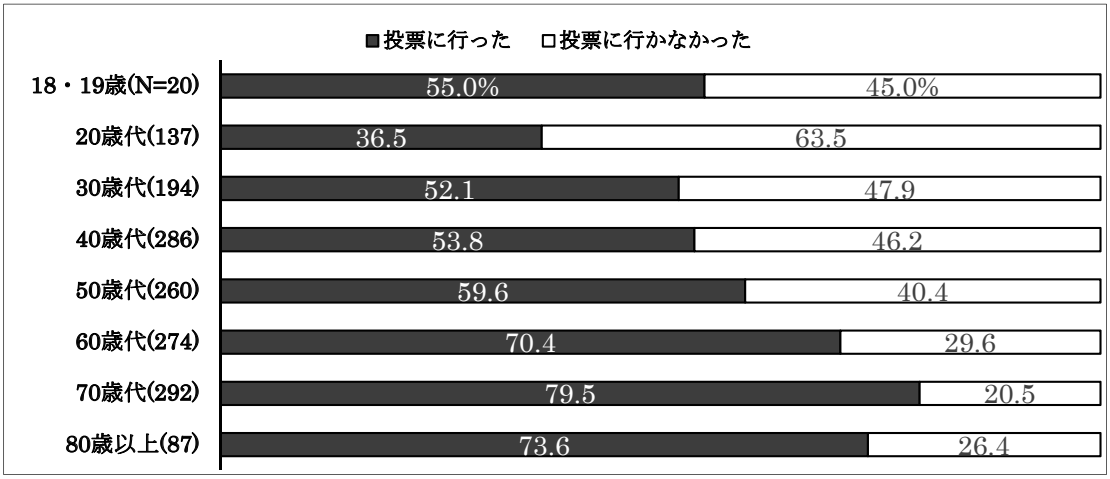
（１）社会的属性による相違

次に、今回の統一選の中で全国的に執行された都道府県議選挙に焦点を当て[2]、投票に行ったか、投票に行かなかったかの選択に対する社会的属性の影響について見てみる。なお、どの世論調査でも「投票した」と回答する割合は、実際の投票率よりもいくらか高い傾向がある。今回の都道府県議選挙では、回答者の 56.7%（前回 59.2%）が投票したと回答しているが、実際の投票率は 44.02%（前回 45.05%）だったので、前回調査と同じ程度の乖離がある。本報告書では、「投票に行った」と回答した人の割合を「投票参加率」と呼ぶこととし、実際の「投票率」とは区分する。なお、無投票地域の回答者は外して計算している。

①年代別

まず、年代別の投票参加率を見ると（図 7)、最も低いのは 20 歳代の 36.5%で、年齢が上昇するに従い投票参加率も上昇する。最も高かったのは 70 歳代の 79.5%で、最も低い 20 歳代（36.5%）の 2 倍強の投票参加率であった。

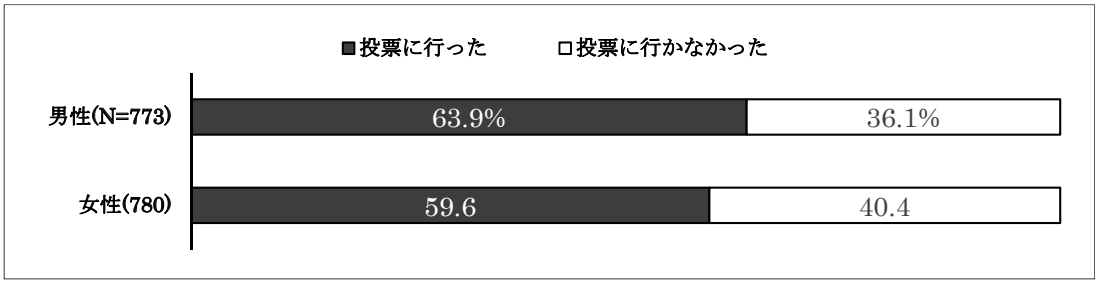
図 7　年代別投票参加率



②性別

性別に関しては、男性の 63.9%（前回は 64.1%)、女性の 59.6%（前回は 62.1%）が「投票に行った」と回答している。今回も前回と同じく男性の方が女性より高く、今回は約 4 ポイントの差があった(図 8)。

図 8　性別投票参加率

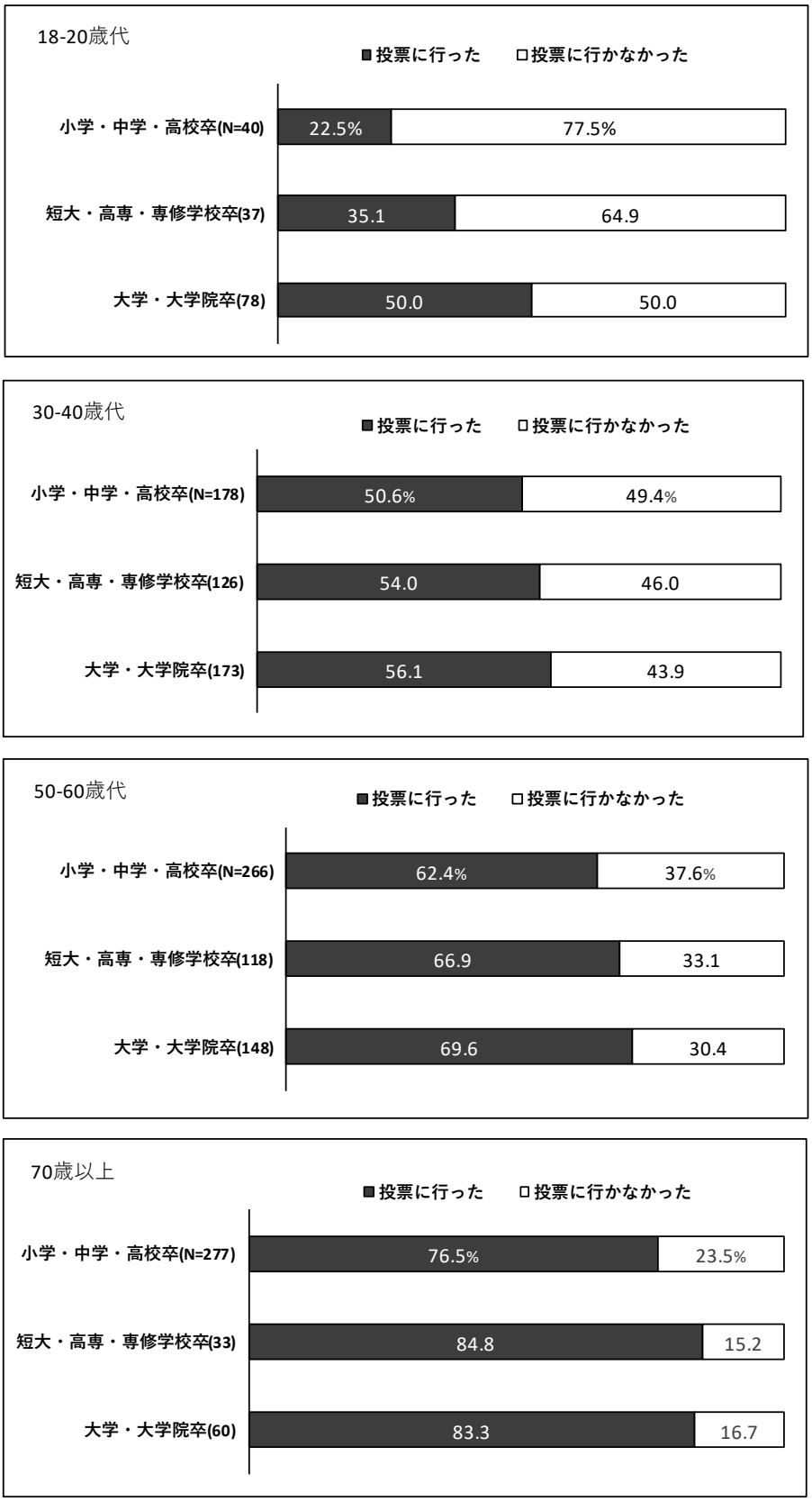


[2] 47 都道府県中、41 道府県で執行された。

③学歴別

学歴が投票参加率に及ぼす影響については、年代によって進学状況に違いがあるため、「18～20 歳代」、「30～40 歳代」、「50～60 歳代」、「70 歳以上」の 4 つに区分して最終学歴と投票参加率の違いを見てみた（図 9）。その中で 18～20 歳代は「小学・中学・高校卒」の投票参加率が他に比べて低く、進学状況による投票参加率の顕著な違いが見られた。

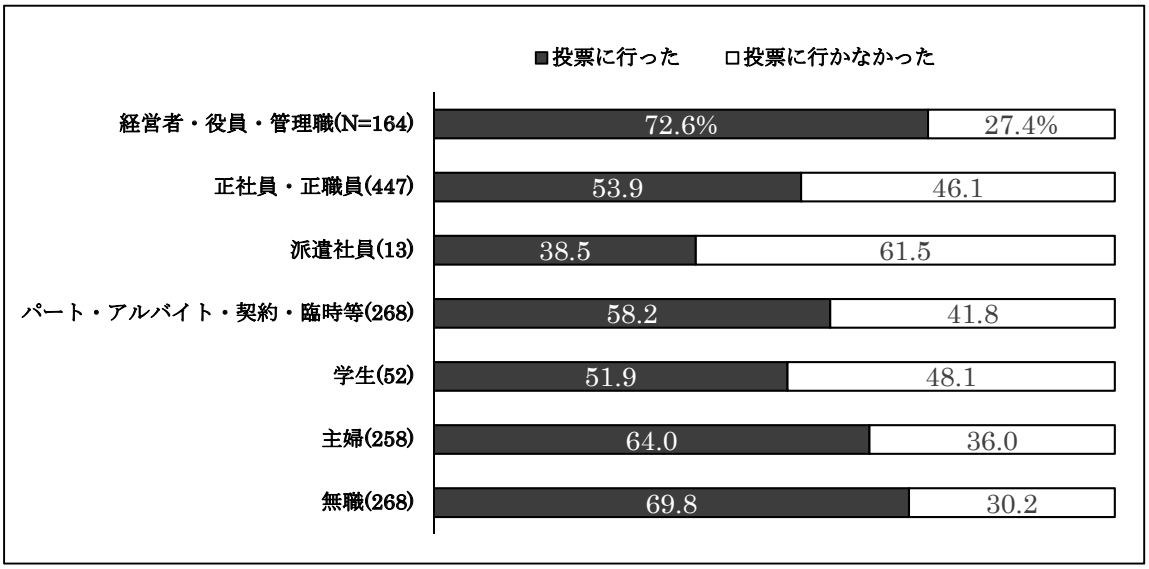
図 9　年代･最終学歴別投票参加率



④職業別

職業との関係を見ると（図 10）、前回調査と同じく、経営者・役員・管理職（72.6%）、無職（69.8%）、主婦（64.0%）の投票参加率が高いことがわかる。主婦の投票参加率が高いのは、家計を管理するなど暮らし全般を最も身近に感じているため、地方の政治・選挙への関心が強いことがあげられる。無職の人の投票参加率が高いのは、高齢の有権者を多く含んでいるからと思われる（図 10 の無職 268 名中、60 歳以上は 235 名）。

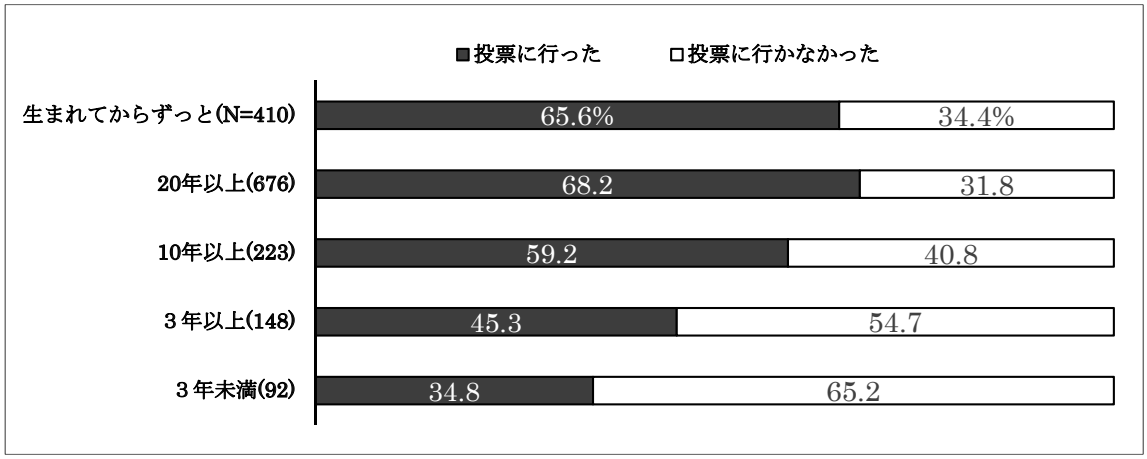
図 10 職業別投票参加率



⑤居住年数別

現在住んでいる市（区・町・村）の居住年数の関係を見ると、居住年数が長いほど、投票参加率が高いことが見られた（図 11）。「生まれてからずっと」現在の市（区・町・村）に住んでいる人の投票参加率は 65.6%、「20 年以上」現在の市（区・町・村）に住んでいる人の投票参加率は 68.2%といずれも高く、次いで 10 年以上（59.2%）、3 年以上（45.3%）となり、3 年未満の人は 34.8%であった。居住年数が短いと、地縁関係が薄く、地域の情報も十分でないために、身近な地方選挙では棄権する人が多くなると考えられる。

図 11 居住年数と投票参加率



（２）社会・政治意識の影響

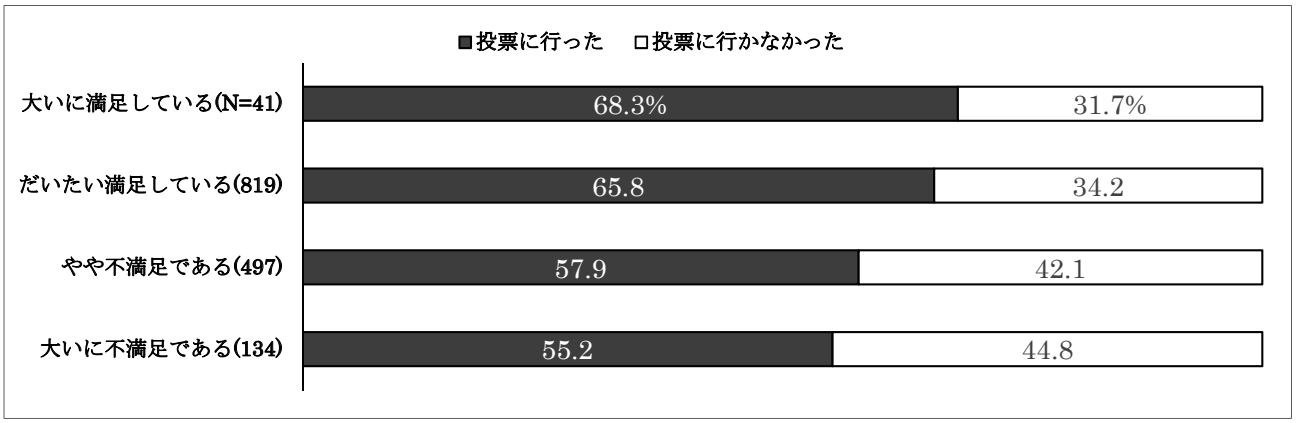
以下、社会や政治に対する意識が、投票―棄権の選択にどのような影響を与えるのかを見ることにする。

①生活満足度

本調査では、「あなたは現在のご自分の生活にどの程度満足していますか」という生活満足度に関する質問をしている。今回、「大いに満足している」と回答した人は 2.6%(前回 2.0%)、「だいたい満足している」は 52.0%(前回 47.0%)、「やや不満足である」は 31.4%(前回 34.7%)、「大いに不満足である」は 8.8%(前回 11.1%)であった。

それぞれの選択肢への回答者の投票参加率を見ると図 12 のとおりで、生活満足度が低いと投票参加率も低下する傾向がうかがわれる。特に「大いに不満足」と回答した人の投票参加率は最も低く、「大いに満足している」より約 13 ポイントも低い結果となっている。

図 12 生活満足度と投票参加率



②政治関心度

本調査では、政治関心度について「あなたはふだん国や地方の政治についてどの程度関心をもっていますか」という質問をしている。この質問に対する回答は図 13 のとおりで、「非常に関心を持っている」と回答した人の割合はほぼ前回と同じであった。これに「多少は関心を持っている」を加えた“関心がある層”を見ると今回は約 2 ポイント減少している（今回 73.0%、前回 75.4%）。

それぞれの回答者の投票参加率は図 14 のとおりで、政治関心度が高い程、投票参加率も高いという正の相関は前回調査と変わらない。

図 13 政治関心度

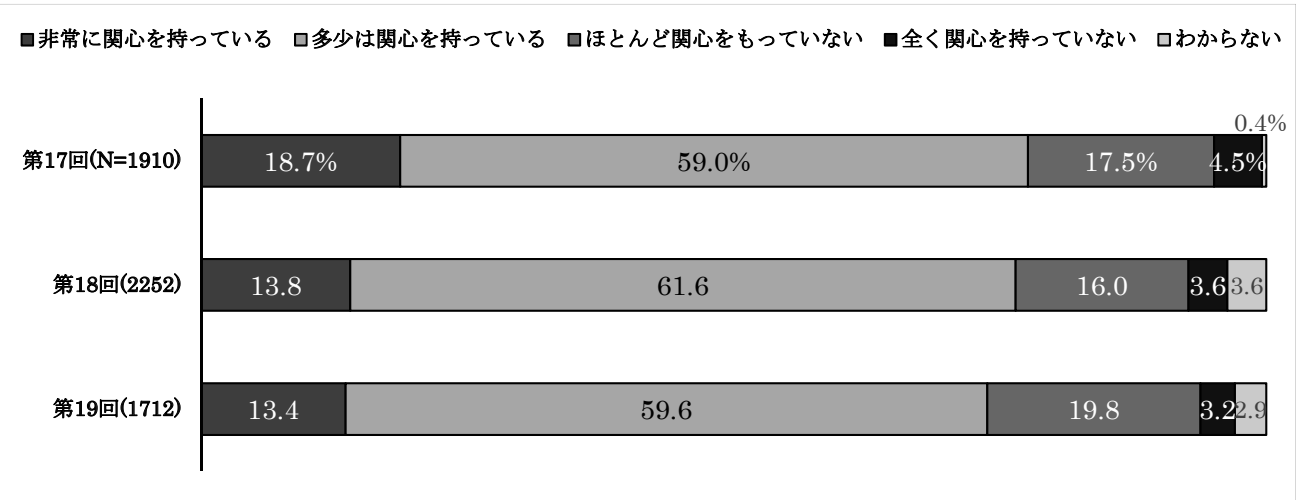
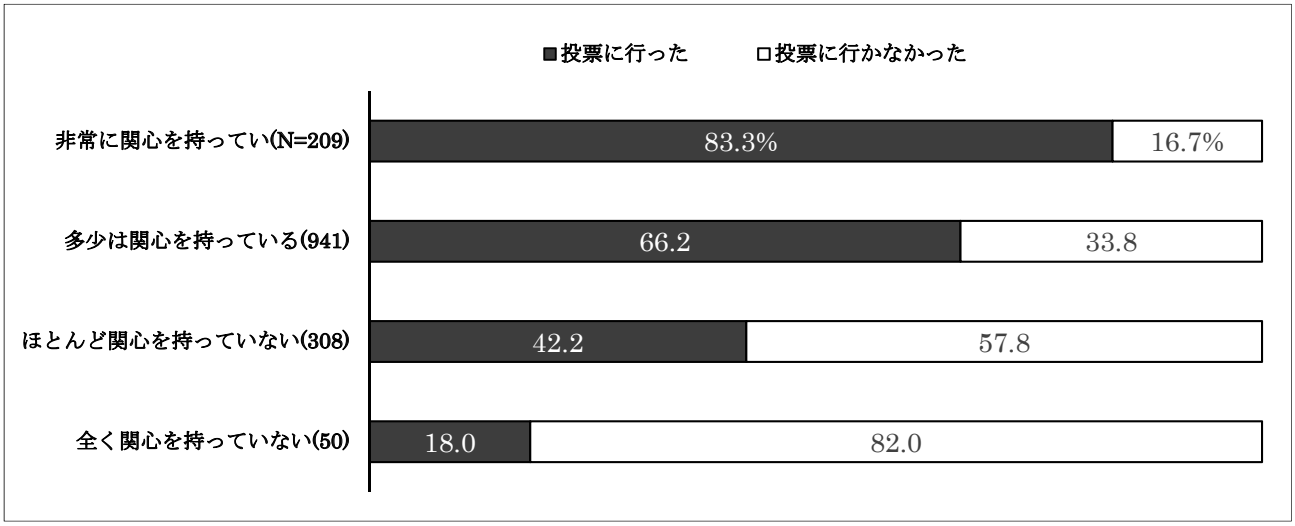


図 14 政治関心度と投票参加率



３　政党支持と投票行動

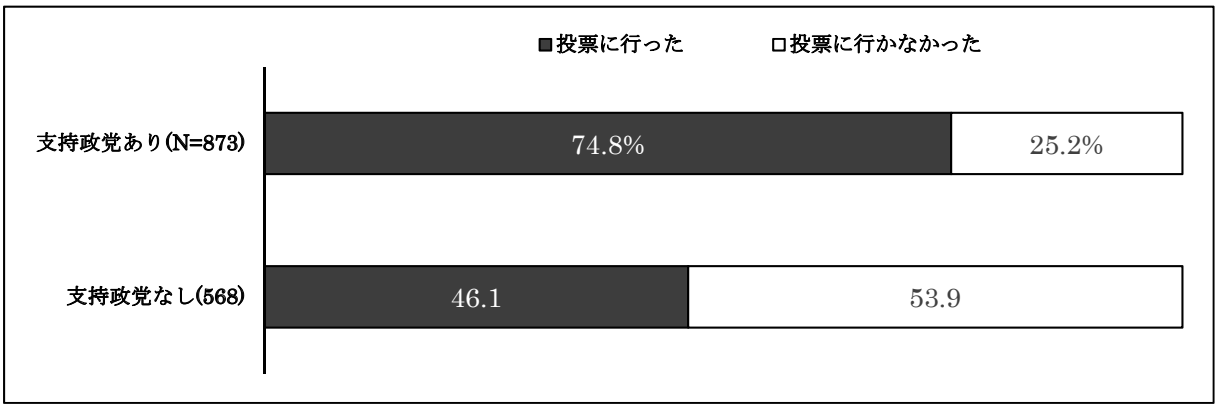
本調査では、「あなたはふだん何党を支持していますか」と質問している。まず、各政党の支持率は表 3 のとおりで、自由民主党(以下自民党という)、公明党、日本共産党(以下共産党という)への支持は前回と大きくは変わらず横ばいであった。ほか旧民進党（旧民主党）議員の多くが所属する立憲民主党（8.6%）と国民民主党（1.1%）への支持を合わせると前回の民主党への支持(9.9%)に近い結果となっている。

表 3　政党支持率　(%)

	第15回(平15)	第16回(平19)	第17回(平23)	第18回(平27)	第19回(平31)
自由民主党	27.9	29.2	22.5	34.3	33.6
民主党	4.5	10.2	12.8	9.9	-
立憲民主党	-	-	-	-	8.6
国民民主党	-	-	-	-	1.1
公明党	3.8	4.0	3.8	3.6	3.5
日本共産党	2.4	2.0	2.7	2.8	2.3
維新の党	-	-	-	3.7	-
日本維新の会	-	-	-	-	2.0
大阪維新の会	-	-	-	-	2.6
希望の党	-	-	-	-	0.1
社会民主党	1.5	1.6	0.8	0.8	0.4
その他	0.3	0.2	1.7	0.7	0.5
支持する政党はない	52.5	48.3	53.1	37.9	36.9
わからない	6.3	4.6	2.5	4.7	6.6

次に支持する政党がある人と、支持する政党がない人[3]との投票参加率を比較してみた（図 15)。その結果、支持する政党がある人の 74.8%が投票に行ったと回答し、支持する政党のない人（46.1%）より約 30 ポイント近くも上回り、大きな違いが見られた。

図 15　支持政党の有無と投票参加率

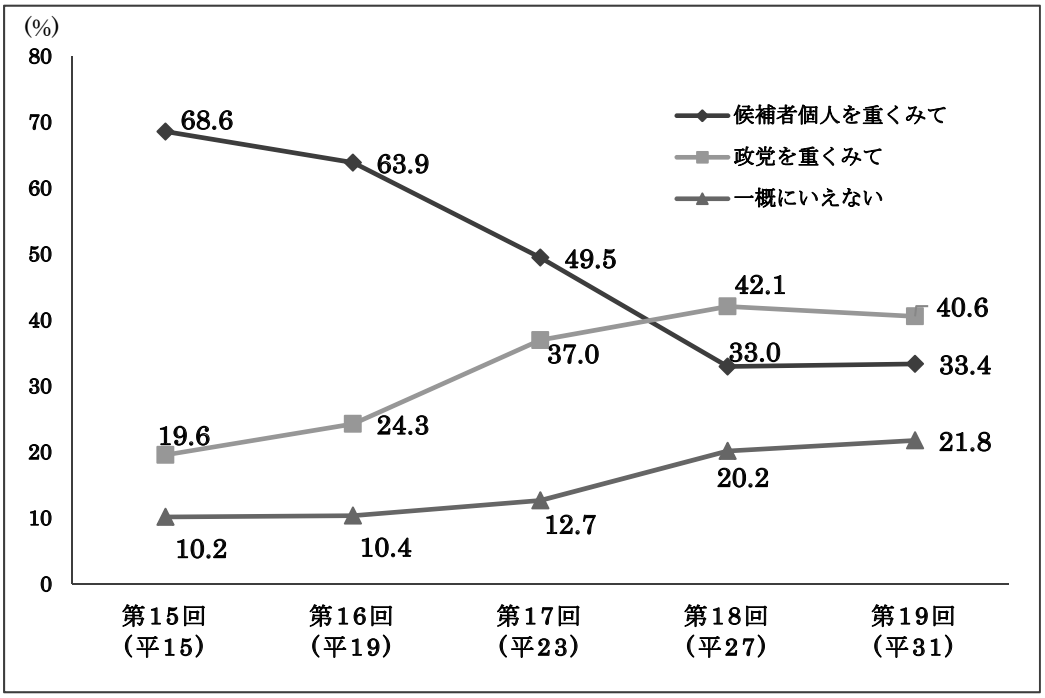


[3] Q55「あなたはふだん何党を支持していますか」で政党名を挙げた人を「支持する政党がある人」とし、「支持する政党はない」を選択した人を「支持する政党がない人」とした。

次に、本調査では「投票した」と回答した人に「あなたは政党を重くみて投票しましたか、それとも候補者個人を重くみて投票しましたか」と尋ねている。その結果を時系列にまとめたのが図 16 である。

「候補者個人を重くみて」と回答した人は回を重ねるごとに減少してきたが、今回は前回（33.0%）とほぼ同じの 33.4%であった。一方「政党を重く見て」は前回の調査で初めて「候補者個人を重くみて」を上回った。今回も「候補者個人を重くみて」よりは約７ポイント高いものの、選択率は前回から約 2 ポイント減少し 40.6%であった。「一概にいえない」は前々回まで 10%程度であったが、前回２割を超え、今回も微増した。

図 16　政党か候補者か（都道府県議選挙）



＊「わからない」は除いた。

＊第 17 回以前は面接調査、第 18 回以降は郵送調査による。

表 4 は、支持政党と都道府県議選挙において投票した政党との一致度を見たものである。自民党を支持政党にあげた回答者のうち、87.0%(前回 88.2%)が同党の候補者に投票している。言い換えると自民党支持者の歩留り率[4]は 87.0%で今回の政党等の中で最も高かった。立憲民主党支持者の歩留まり率は 61.1%で、9.3%が自民党、共産党のそれぞれの候補者へ流れている[5]。

公明党、共産党はそれぞれ 79.2%、83.3%と前回より低下したが(前回公明党 87.0%、共産党 84.3%)、今回も自民党に次いで高い歩留まり率となっている。「支持する政党はない」と回答した人の投票先は、自民党の候補者が 27.1%（前回 27.8%）と最も多く、次いで立憲民主党の候補者の 15.3%、無所属候補者の 14.5%となっている。

表 4 支持政党と投票政党

(%)

		投票政党														実数
		自由民主党	立憲民主党	国民民主党	公明党	日本共産党	日本維新の会	大阪維新の会	自由党	希望の党	社会民主党	その他の党	無所属	白票を入れた	わからない無回答	(支持政党)
支持政党	自由民主党	87.0	1.5	0.3	2.3	0.3	0.5	2.6	0.0	0.0	0.3	0.0	2.6	0.5	2.3	392
	立憲民主党	9.3	61.1	0.9	0.0	9.3	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	0.9	13.9	0.0	3.7	108
	国民民主党	11.1	0.0	77.8	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9
	公明党	20.8	0.0	0.0	79.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	48
	日本共産党	6.7	3.3	3.3	0.0	83.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3	30
	日本維新の会	12.0	0.0	0.0	0.0	4.0	36.0	36.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	8.0	25
	大阪維新の会	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	10.7	75.0	0.0	0.0	0.0	3.6	0.0	0.0	3.6	28
	希望の党	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	社会民主党	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	42.9	0.0	28.6	0.0	14.3	7
	その他の党	0.0	16.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	33.3	0.0	0.0	6
	支持する政党はない	27.1	15.3	3.8	3.1	8.4	1.9	1.5	0.0	0.0	0.8	0.4	14.5	3.8	19.5	262
	わからない	17.6	8.8	2.9	5.9	2.9	0.0	2.9	0.0	0.0	0.0	2.9	14.7	2.9	38.2	34
	無回答	36.4	4.5	4.5	27.3	0.0	0.0	9.1	4.5	0.0	0.0	0.0	4.5	0.0	9.1	22
実数(投票政党)		452	119	24	64	62	19	48	1	0	6	5	74	13	84	971

[4] 支持する政党に投票した人の割合

[5] 各選挙区に支持する政党の候補者がいない場合などに歩留まり率は低下する。

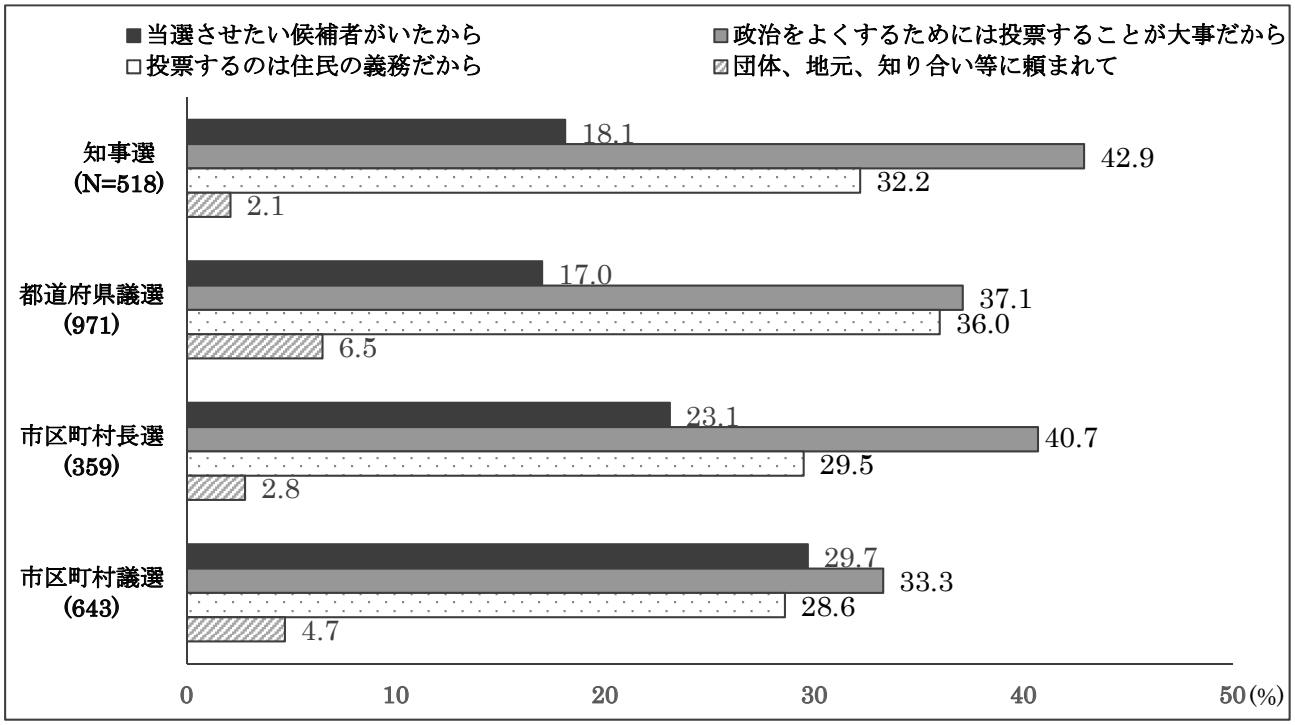
４　投票・棄権の理由、投票決定時期等

(1)投票理由

本調査では、知事選挙、都道府県議選挙、市区町村長選挙、市区町村議選挙のそれぞれについて、「○○選挙で投票したのはどういう気持ちからですか」という質問を行い、その答えとして６項目の中から１つだけ選んでもらっている。その回答をグラフにまとめたのが図 17 である。

知事選挙、都道府県議選挙、市区町村長選挙、市区町村議選挙とも投票理由は、「政治をよくするためには投票することが大事だから」が最も多く、次いで市区町村議選挙を除き、「投票するのは住民の義務だから」が続く。「当選させたい候補者がいたから」は前回と同じく、市区町村長選挙や市区町村議選挙の方が知事選挙や都道府県議選挙と比べると高い。

図 17　投票理由



＊「その他・わからない（無回答)」は除いた。

図 17 のうち、都道府県議選挙について、前回と対比してみた（表 5)。大きな違いは見られなかったが、「団体、地元、知り合い等に頼まれて」が前回より 2.5 ポイント多かった。

表 5　都道府県議選における前回との対比　　(%)

	18 回 (H27)	19 回 (H31)
当選させたい候補者がいたから	17.5	17.0
政治をよくするためには投票することが大事だから	38.7	37.1
投票するのは住民の義務だから	37.9	36.0
団体、地元、知り合い等に頼まれて	4.0	6.5

＊「その他・わからない（無回答)」は除いた。

（２）棄権理由

次に、棄権した理由を見てみる（表 6）。これは都道府県議選挙の棄権者に、「投票に行かなかったのはなぜですか」と尋ね、13 項目から当てはまるもの全てを選んでもらった結果を、前回調査の結果と対比させた。今回、都道府県議選挙の棄権理由として最も選択率が多かったのは「選挙にあまり関心がなかったから」の 37.9%、次いで「政党の政策や候補者の人物像など、違いがよくわからなかったから」の 25.8%、「仕事があったから」の 23.8%となっている。前回も同様の順位であったが、今回は「選挙にあまり関心がなかったから」が 4 ポイント高かった（前回 33.9%）以外に大きな違いは見られなかった。ほか「選挙によって政治はよくならないと思ったから」も前回より約 4 ポイント高かった（前回 13.8%）。

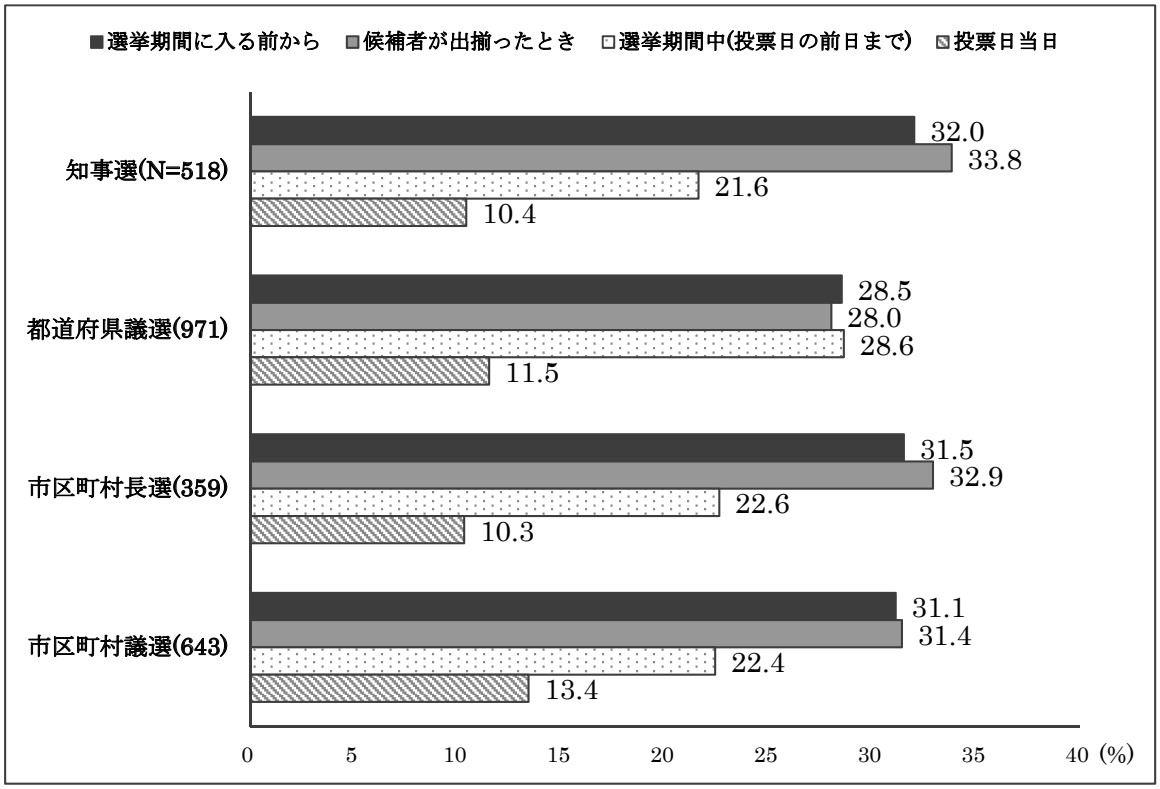
表 6 棄権の理由 (%)

	都道府県議選	
	18 回（H27）	19 回（H31）
仕事があったから	25.0	23.8
重要な用事（仕事を除く）があったから	8.7	11.9
体調がすぐれなかったから	12.4	12.9
投票所が遠かったから	3.1	2.2
選挙にあまり関心がなかったから	33.9	37.9
政党の政策や候補者の人物像など、違いがよくわからなかったから	26.5	25.8
支持する政党の候補者がいなかったから	8.1	9.4
適当な候補者がいなかったから	19.2	16.6
私一人が投票してもしなくても同じだから	9.6	11.7
今の政治を変えなくてもいいと思ったから	0.6	1.2
選挙結果が予想できる無風選挙であったから	7.2	4.7
選挙によって政治はよくならないと思ったから	13.8	17.9
今住んでいる所に選挙権がないから	1.8	3.5
棄権者数	781	597

（３）投票決定時期

特定の候補者に投票するのを決めたのはいつ頃であったのかを、選挙の種類ごとに見たものが図 18 である。どの選挙についても回答者の２分の１以上の人は「選挙期間に入る前から」または「候補者が出揃ったとき」には誰に投票するかを決めており、前回調査でも同様の結果が見られた。今回、「選挙期間に入る前から」はどの選挙でも 1～6 ポイント程度上昇している（知事選挙：今回 32.0％・前回 26.5％、都道府県議選挙：今回 28.5％・前回 27.6％、市区町村長選挙：今回 31.5％・前回 28.2％、市区町村議選挙：今回 31.1％、前回 28.5％）

図 18　投票決定時期



＊「その他・わからない（無回答）」は除いた。

５　選挙で考慮した政策課題

本調査では、知事選挙、都道府県議選挙に投票した人に「あなたはどのような政策課題を考慮しましたか」と質問し、17 項目から当てはまるもの全てを選択してもらった（表 7）。知事選挙、都道府県議選挙とも、最も選択率が高かった項目は「医療・介護」、次に高いのが「高齢化対策」で「景気・雇用」「教育」がこれに続いている。

前回と対比すると、それぞれの選択率に増減はあるものの、上位の順位は前回と同じとなっている。

表 7　考慮した政策課題　　(%)

	知事選挙		道府県議選挙	
	18 回（H27）	19 回（H31）	18 回（H27）	19 回（H31）
医療・介護	52.9	50.6	55.1	53.5
教育	24.5	31.5	24.3	28.8
景気・雇用	45.3	43.4	43.6	39.8
少子化対策	20.8	24.1	19.2	26.8
高齢化対策	51.0	45.0	47.6	45.6
災害対策	20.6	23.7	19.0	20.1
治安対策	9.3	9.7	8.4	7.8
地方議会の改革	9.1	12.0	9.1	8.2
地方自治のあり方	15.2	19.7	11.2	14.2
地方の行財政改革	14.8	15.6	11.9	12.2
中小企業対策	11.1	9.3	8.1	7.1
農林水産業の振興	8.9	5.6	7.8	5.7
社会資本整備	3.0	4.4	2.9	2.6
環境対策	13.4	12.5	11.9	13.1
原発・エネルギー	16.9	11.0	14.9	12.3
地方創生	14.7	15.6	13	10.1
国政の動向	6.5	9.7	10.5	11.3

考慮した政策課題を 18～20 歳代、30～40 歳代、50～60 歳代、70 歳以上と年代別に見たのが表 8 の(1)及び（2）である。

（1）の知事選挙を見てみると、18～20 歳代で最も選択率が高いのは「教育」、次いで「景気・雇用」、「医療・介護」と続く。30～40 歳代では「景気・雇用」が最も高く、「教育」、「医療・介護」と続く。50～60 歳代及び 70 歳以上では先の年代と異なり、「高齢化対策」が最も選ばれ、次いで「景気・雇用」または「医療・介護」の順となっている。ほかには 18～20 歳代及び 30～40 歳代では「地方自治」が、50～60 歳代及び 70 歳以上では「災害対策」が選択されている。

（2）の都道府県議選挙においても順位に違いはあるものの、いずれの年代も知事選挙で挙げた課題が並んでいる。その中で 18～20 歳代及び 30～40 歳代では「高齢化対策」が、反対に 50～60 歳及び 70 歳以上では「少子化対策」が上位５位に入っている。

表 8 年代別考慮した問題（上位 5 位）

(1)知事選挙

(%)

	18～20歳代		30～40歳代		50～60歳代		70歳以上	
1	教育	48.4	景気・雇用	52.3	高齢化対策	49.7	高齢化対策	67.3
2	景気・雇用	32.3	教育	40.0	景気・雇用	49.2	医療・介護	66.7
3	医療・介護	32.3	医療・介護	38.5	医療・介護	47.7	景気・雇用	32.1
4	少子化対策	29.0	少子化対策	21.5	教育	26.4	災害対策	28.8
5	地方自治	19.4	地方自治	18.5	災害対策	25.9	教育	26.9

(2)都道府県議選挙

(%)

	18～20歳代		30～40歳代		50～60歳代		70歳以上	
1	教育	37.7	景気・雇用	45.9	医療・介護	53.7	医療・介護	66.2
2	景気・雇用	34.4	医療・介護	43.1	高齢化対策	50.6	高齢化対策	65.5
3	医療・介護	27.9	教育	38.4	景気・雇用	42.8	景気・雇用	32.4
4	少子化対策	31.1	少子化対策	26.7	教育	26.4	少子化対策	27.0
5	高齢化対策	19.7	高齢化対策	20.0	少子化対策	25.9	災害対策	23.6

６ 選挙関連情報への接触度と有効度

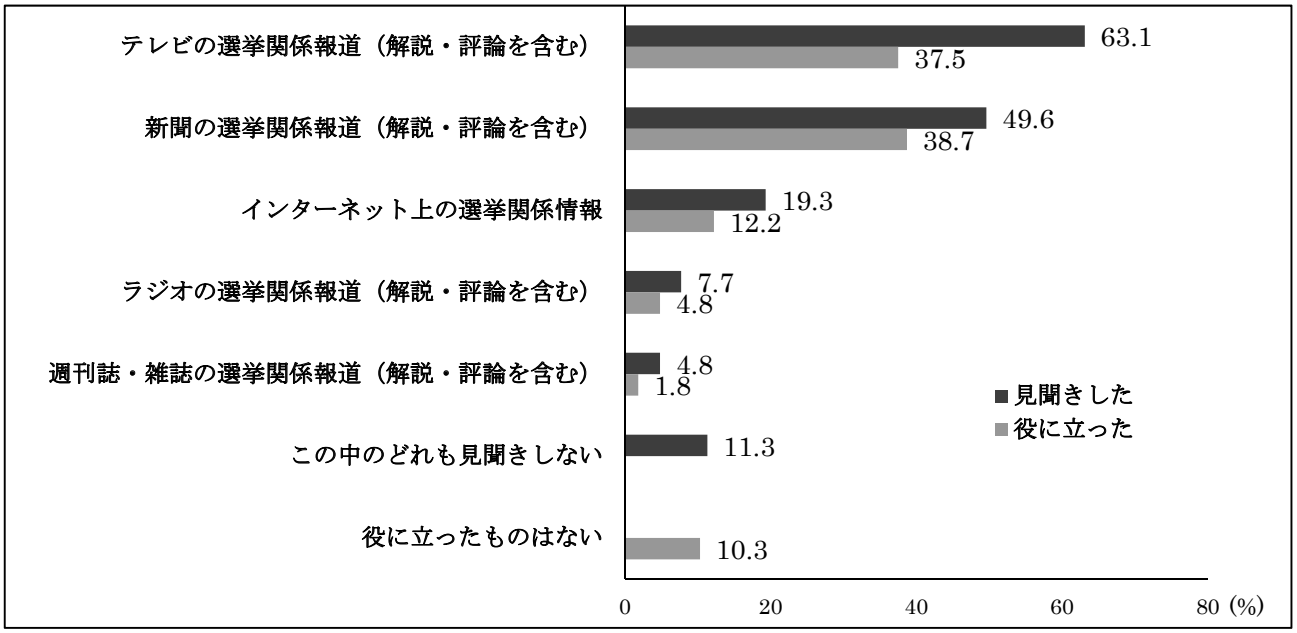
（１）選挙報道等

本調査では、マスメディアの選挙報道について、「あなたは今回の統一地方選挙で投票日より前に行われた下記の報道などを見たり聞いたりしましたか。見たり聞いたりしたものがあればすべて選んでください」（回答者数 1,712）と尋ねたうえで、次に、「その中で役に立ったものがあれば、すべて選んでください」（回答者数 1,403）と重ねて質問している。

その結果は、図 19 のとおりで、選挙報道への接触については、テレビの 63.1%、次いで新聞の 49.6%が多い。それ以外の媒体については、インターネットが 19.3%、ラジオが 7.7%、週刊誌・雑誌が 4.8%で、テレビ、新聞に比べるとかなり少ない。

それらの媒体から得られた情報が役に立ったかどうかについては、前回調査と同じく新聞とテレビが逆転し、新聞が 38.7%で最も高く、テレビの 37.5%が続く。インターネット、ラジオは接触度が低いものの、接触した人の約６割の人は「役に立った」と回答している。

図 19 選挙報道への接触度と有効度



上記のうち、テレビ、新聞、インターネットの接触度と有効度を前回と比べてみたところ（表 9)、インターネット上の選挙関係情報について、接触度が今回は前回より約 8 ポイント高く、有効度も約 4 ポイント高かった。一方、新聞への接触度は 5 ポイント余り低下している。

平成 25 年の改正公職選挙法により選挙期間中もインターネット上での選挙運動が解禁されたことからそれまでの報道機関などが発信する情報に、各政党や候補者が発信する情報も加わった。以降、国政選挙で４回、統一選で１回と回を重ねてきたことから[6]、各政党や候補者のフェイスブックやツイッター等のＳＮＳに対しても有権者が馴染んできたことが挙げられる。

6 国政選挙：第 23 回参院選(平成 25 年 7 月執行)、第 47 回衆院選(平成 26 年 12 月執行)、第 24 回参院選(平成 28 年 7 月執行)、第 48 回衆院選(平成 29 年 10 月執行)。統一地方選挙：第 18 回(平成 27 年 4 月執行)

表 9　上位 3 つの媒体の前回対比

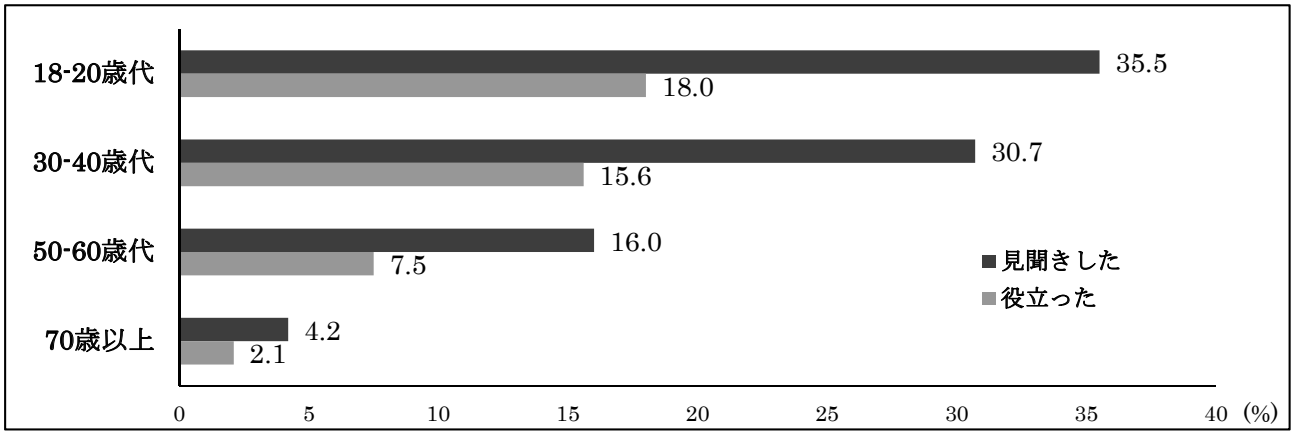
(%)

	見聞きした		役に立った	
	18回（H27）	19回（H31）	18回（H27）	19回（H31）
テレビの選挙関係報道（解説・評論を含む）	63.4	63.1	37.0	37.5
新聞の選挙関係報道（解説・評論を含む）	54.9	49.6	39.6	38.7
インターネット上の選挙関係情報	11.8	19.3	8.4	12.2

「インターネット上の選挙関係情報」についての接触状況等を年代ごとにみた（図 20）。最も接触したのは 18～20 歳代の 35.5%、次いで 30～40 歳代の 30.7%と年代が上がるごとに接触度が低下していく。

役に立ったと回答した割合はどの年代も接触度の半分程度となっている。

図 20　インターネット上の選挙関係情報への接触状況



ちなみに本調査では「あなたは主に何を使ってインターネットに接続していますか」と尋ねているが、この結果を年代別に見ると表 10 のとおりである。18～30 歳代は、８割以上がスマートフォンから接続している。反対にパソコンからの利用及びインターネットは使わない、は年代の高まりとともに増加している。

表 10　インターネットの接続状況

(%)

	パソコン	スマートフォン	タブレット	インターネットは使わない
18・19 歳(N=23)	4.3	91.3	0.0	4.3
20 歳代(149)	10.7	87.9	0.0	1.3
30 歳代(210)	10.0	85.7	3.3	1.0
40 歳代(303)	16.8	76.2	4.3	2.6
50 歳代(281)	29.5	58.0	6.0	6.4
60 歳代(290)	32.4	34.1	8.3	25.2
70 歳代(308)	28.9	12.3	2.3	56.5
80 歳以上(70)	10.0	11.4	4.3	74.3

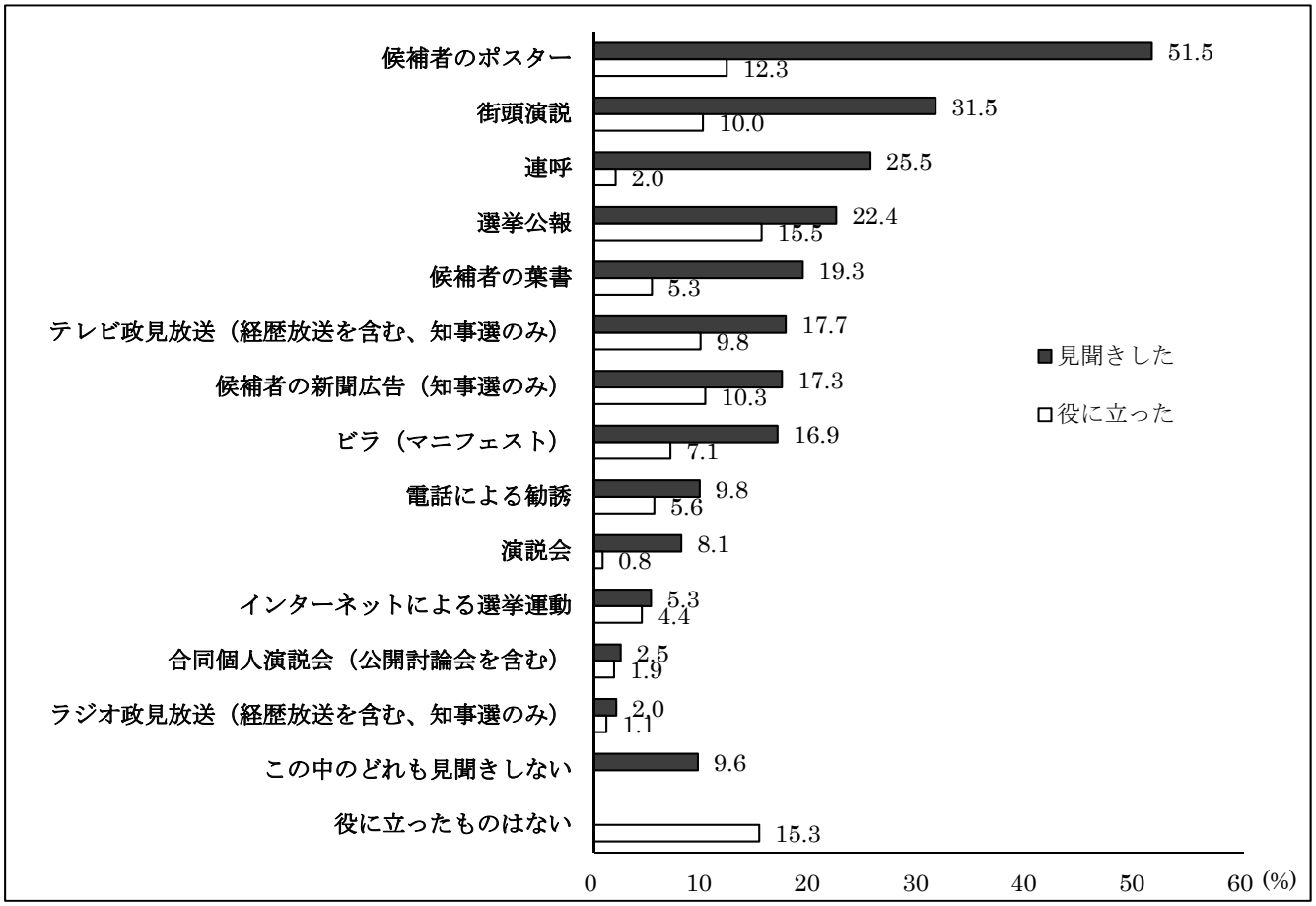
（２）選挙運動等

次に、政党や候補者による情報提供について、選挙期間中に見たり聞いたりしたものと役に立ったものを、選挙報道とほぼ同様に尋ねている。

その結果は図 21 のとおりで、見聞きしたものとして 20%以上の回答があったのは、「候補者のポスター」（51.5%）、「街頭演説」（31.5%）、「連呼」（25.5%）、「選挙公報」（22.4%）であった。

それらが役に立ったかどうかを見ると、「役に立った」という回答が最も多かったのは「選挙公報」（15.5%）、次いで「候補者のポスター」（12.3%）、「街頭演説」（10.0%）であった。前回調査と同じく、接触度が高いものが必ずしも有効度が高いとは限らず、連呼、候補者の葉書は、接触度は高いが、「役に立った」という人は、それぞれ 2.0%、5.3%に止まっている。また「候補者のポスター」も接触した人は 51.5%にものぼるものの、役に立ったとしたのは 12.3%に止まっている。一方、「電話による勧誘」（接触度 9.8%、有効度 5.6%）、「インターネットによる選挙運動」（接触度 5.3%、有効度 4.4%）は、接触度は低いものの、高い有効度が示されている。

図 21 選挙運動等への接触度と有効度



（３）選挙啓発媒体

総務省、都道府県・市区町村選挙管理委員会、明るい選挙推進協議会は、今回の統一選で「投票に参加しましょう」という呼びかけを行ったが、本調査ではそのような啓発活動の中から 16 項目を選んで、見たり聞いたりしたものがあるかを尋ねた。表 11 は各項目の接触率を、全体（今回と前回）、及び年代別に分けてまとめた。今回、最も「見たり聞いたりした」と回答があったのが、「テレビスポット広告」（42.9%）、次いで「新聞広告」（38.9%）で、いずれも前回と同じく上位を占めた。その他、「見たり聞いたりした」回答が 20%を超えたのは、「国や都道府県、市区町村の広報紙」（25.9%）、「啓発ポスター・チラシ」（22.6%）であった。

前回と比べると、今回上位にある新聞広告（前回 42.8%）、テレビスポット広告（前回 49.8%）、「国や都道府県、市区町村の広報紙」（前回 27.3%）、「啓発ポスター・チラシ」（前回 25.5%）は、一様に接触度が減少しており、逆に「見聞きしなかった」が前回の 8.8%から今回 15.8%に上昇している。

年代別に見ると、「新聞広告」、「国や都道府県、市区町村の広報紙」などの活字媒体は、中高年層の接触度が高く、逆に、「インターネット上での広告」、「交通広告」は若年層の接触度が高いことが読み取れる。「啓発ポスター・チラシ」はいずれの年代でも概ね２割の人が目にしている。

表 11　見たり聞いたりした統一選啓発媒体　（%）

	18-20歳代	30-40歳代	50-60歳代	70歳以上	全体	
					今回	前回
新聞広告	17.0	23.0	43.4	62.2	38.9	42.8
テレビスポット広告	28.7	34.8	47.9	52.1	42.9	49.8
ラジオスポット広告	0.6	4.1	6.6	5.9	5.0	6.5
交通広告（車内・駅・バス）	17.0	8.8	7.8	6.1	8.6	11.2
雑誌広告（フリーペーパーを含む）	3.5	1.9	3.7	1.0	2.5	2.4
啓発ポスター・チラシ	21.6	21.4	24.2	22.4	22.6	25.5
国や都道府県、市町村の広報紙	14.6	15.4	27.4	41.8	25.9	27.3
都道府県・市町村の広報車	12.9	10.3	15.1	19.9	14.6	19.0
街頭・イベントなどでの啓発キャンペーン	9.4	9.9	6.8	7.9	8.3	9.9
立看板、広告塔、たれ幕等	16.4	9.5	11.9	16.0	12.6	15.0
デパートなどでのアナウンス	2.9	1.6	1.8	1.0	1.6	1.7
銀行などのＡＴＭ	2.9	0.4	0.7	0.0	0.7	0.5
コンビニのレジ画面	2.3	1.4	0.7	0.0	0.9	0.8
有線放送	0.6	0.6	2.3	2.5	1.6	1.8
国、都道府県、市町村のホームページ、ＳＮＳ	9.4	3.9	2.8	1.7	3.6	2.0
インターネット上での広告	14.0	8.9	5.7	1.7	6.6	5.0
その他	0.0	1.2	1.1	1.0	1.0	0.7
見聞きしなかった	26.3	23.3	13.7	4.9	15.8	8.8
わからない	9.4	9.7	7.7	2.9	7.3	9.4

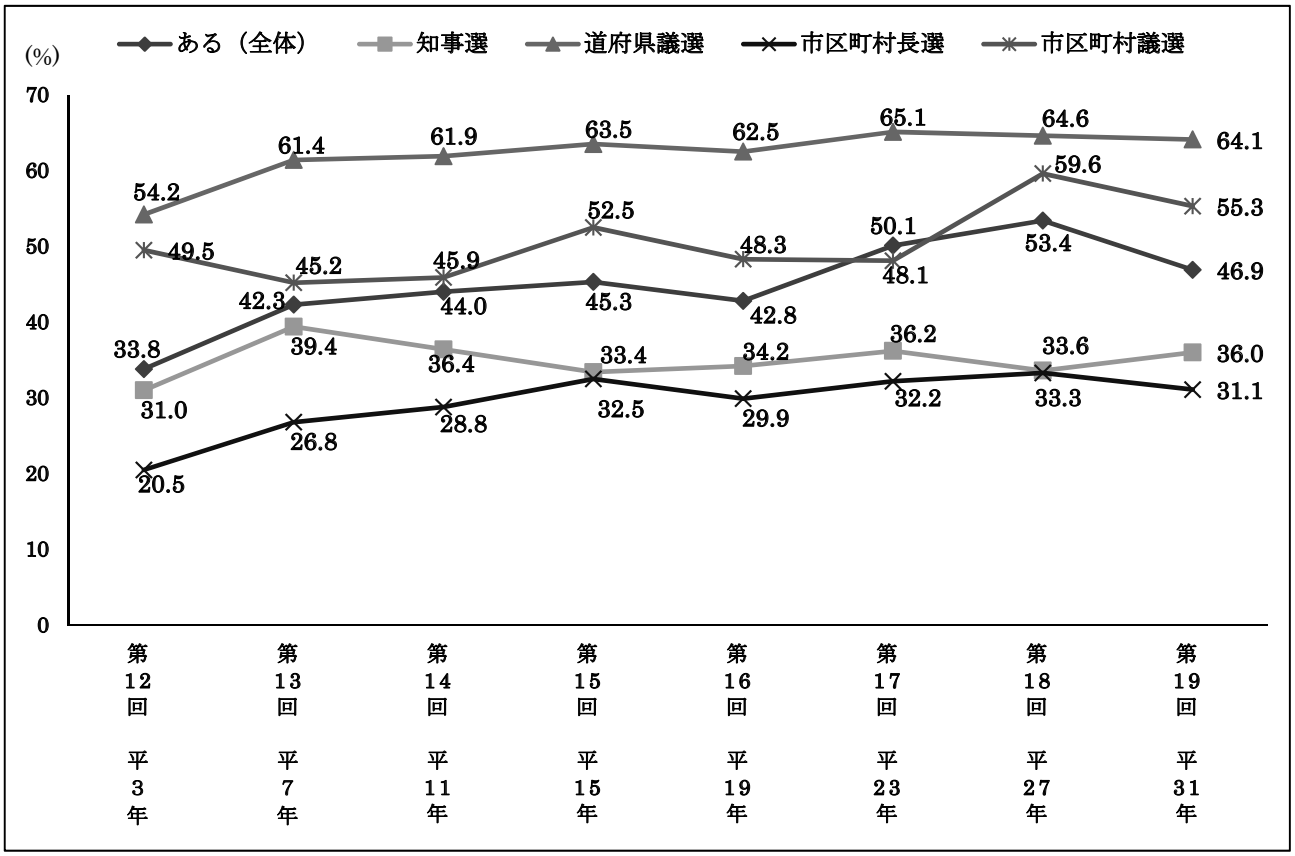
（４）候補者情報

本調査では、候補者に関する情報が不足していると感じているかどうかについて「地方選挙で『候補者の人物や政見がよくわからないために、誰に投票したらよいか決めるのに困る』という声があります。最近の地方選挙で、あなたはそう感じたことがありますか」と尋ねている。この質問に、感じたことが「ある」と答えた回答者の割合を、過去と比較できるようにしたのが図 22 である。

この図からわかるように、候補者情報の不足を認識している有権者の数は、回を追うごとに増加傾向にある。平成最初の統一選であった第 12 回統一選（平 3）では、その割合は 30%台の前半であったのが、第 13 回統一選（平 7）から 40%を超え、前々回の統一選で５割を超え、前回は 53.4%まで上昇した。今回は約 7 ポイント低下し 46.9%となったものの、依然として半数近い人は候補者情報の不足を感じており、このことは地方選挙における大きな課題として定着しつつある。

上の質問で感じたことが「ある」と答えた 46.9%の回答者に、そう感じたのは「どの選挙でしたか」と尋ねたところ（複数回答可）、これまでと同じく都道府県議選挙が最も多く 64.1%、次いで市区町村議選挙の 55.3%、知事選挙の 36.0%、市区町村長選挙の 31.1%であった。首長選挙より議員選挙の方が候補者の情報不足を挙げる人が多い。25 頁に掲載の「関心のある選挙」で、「議員選挙より首長選挙の方が関心が高い」といった調査結果との関連性が見受けられる。

図 22　候補者情報の不足を感じたことがある人の割合



＊第 17 回以前は面接調査、第 18 回以降は郵送調査による。

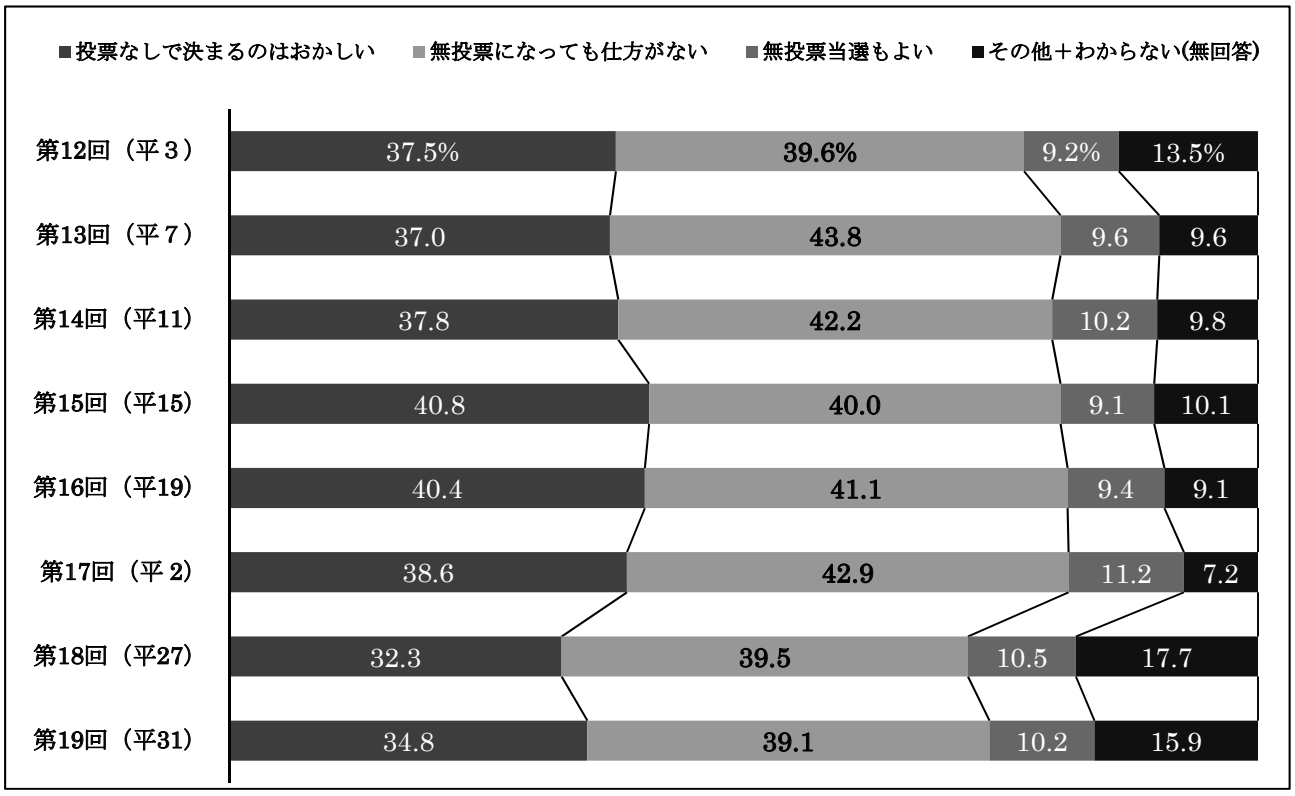
7 選挙のあり方 －無投票当選の是非－

地方選挙においては、無投票当選者が多く、今回の統一選でも、市長 27 人（前回 27 人）、町村長 55 人（53 人）、道府県議 612 人（501）、指定都市市議 34 人（17 人）、市議 182 人（246 人）、町村議 988 人（930 人）の合計 1,898 人が無投票で当選した。今回は前回よりも 124 人多かった（前回 1,774 人）[7]。

本調査では、有権者がこれらの無投票当選をどのように受け止めているかを探るため、「今回の統一選では、都道府県議会議員選挙や市区町村長選挙などに無投票当選がありますが、これについてあなたはどう思われますか。あなたの考えに一番近いものをお答えください」として、（ア）公職者（首長や議会議員）は投票で決めるのが本すじであるのに、投票なしに決まるのはおかしい、（イ）定数を超える候補者が立たないのだから、無投票になっても仕方がない、（ウ）選挙のわずらわしさや、あとに対立が残ることや、また経費のことなどを考えると、無投票当選もよい、の３つの選択肢の中から１つ選んでもらっている。図 23 は、その結果を過去の調査結果と対比したものである。

これを見ると「投票なしで決まるのはおかしい」が徐々に増加していたが、第 16 回から減少に転じ、前回は 32.3％と近年で最も低かったが、今回は 34.8％と 2 ポイントほど上昇した。ほか「無投票になっても仕方がない」、「無投票当選もよい」については前回とほぼ同じ結果となっている。

図 23 無投票当選についての考え

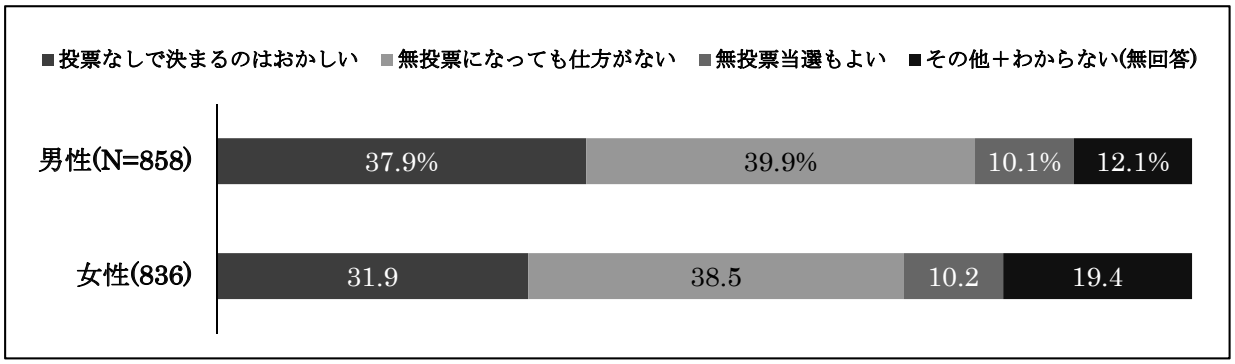


＊第 17 回以前は面接調査、第 18 回以降は郵送調査による。

[7] 首長選挙、議員選挙の改選定数は、今回 15,268、前回 15,494 で、無投票当選割合は今回 12.4%、前回 11.4%であった。

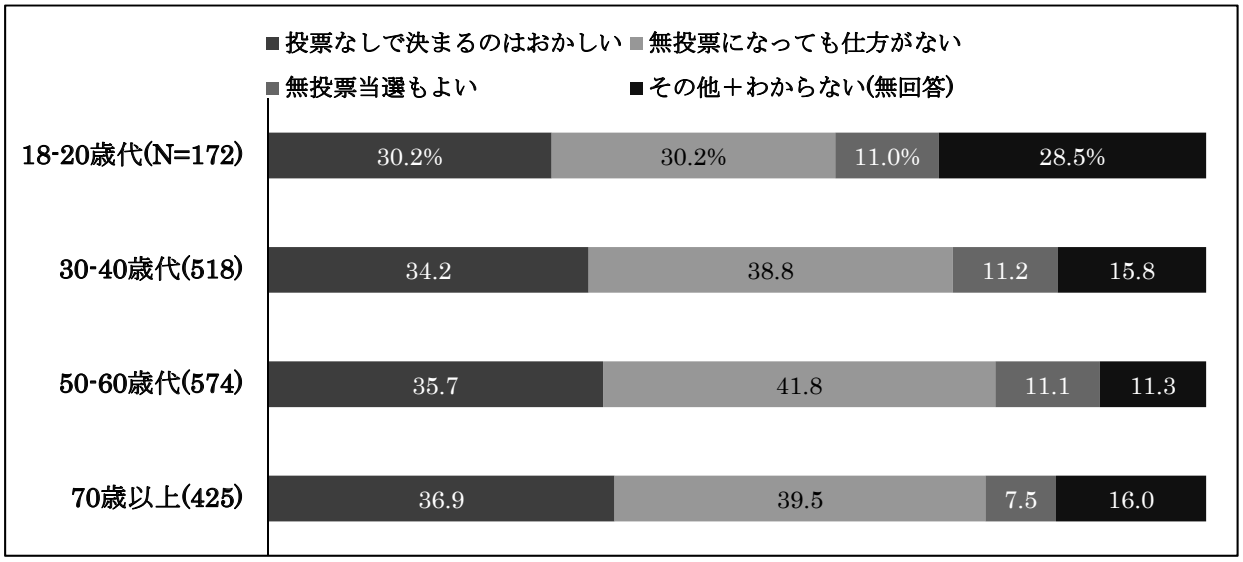
今回の調査結果を男女別で見ると、「投票なしで決まるのはおかしい」と答えた人は男性の方が多く、女性は「わからない」が多い。

図 24　男女別・無投票当選についての考え



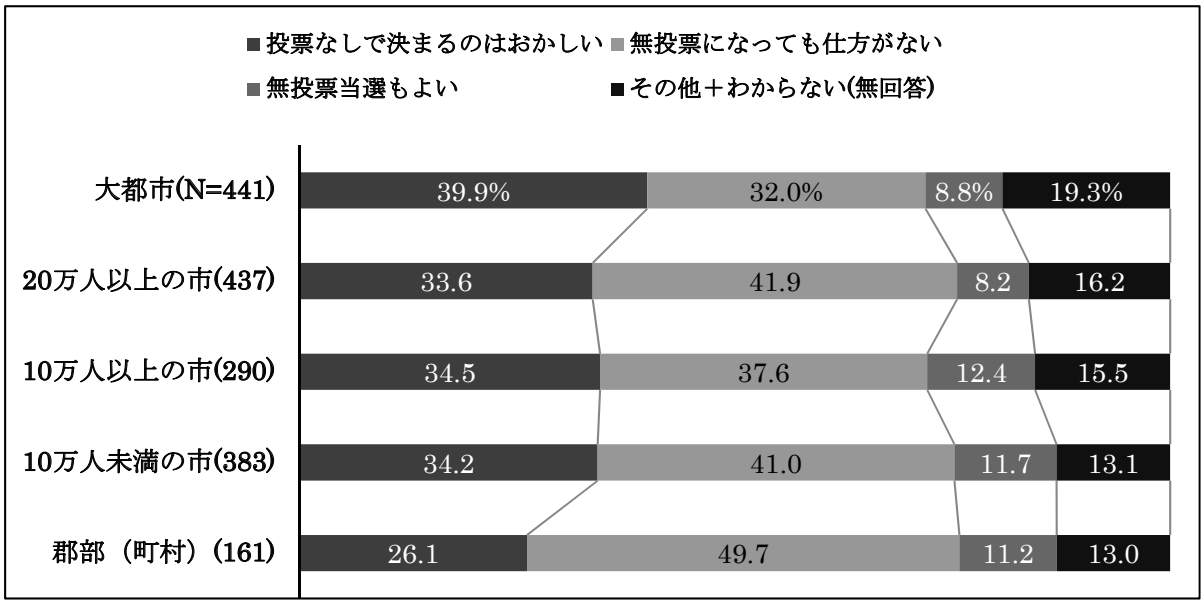
年代別に見ると、「投票なしで決まるのはおかしい」は年代が上がるほど高まる傾向が見られた。また「無投票当選もよい」は、70 歳以上が 7.5%と他の年代に比べて約 4 ポイント少なかった（他の年代は 11.0～11.2%）。

図 25　年代別・無投票当選についての考え



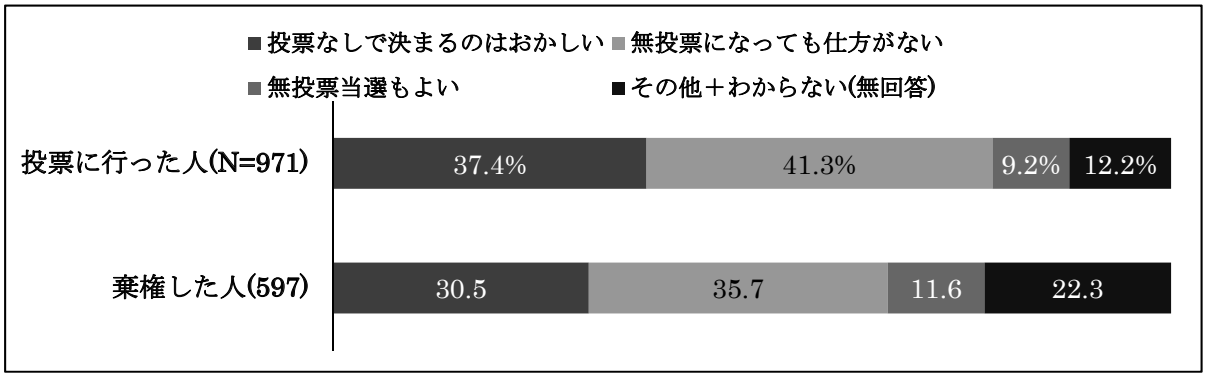
都市規模別に見ると、「無投票になっても仕方がない」と答えた人は、人口規模の減少とともに増えており、大都市で 32.0%であるのに対し、町村では 49.7%と約 17 ポイントも多い。

図 25　都市規模別・無投票当選についての考え



投票した人と棄権した人を比べて見ると、棄権した人は投票した人に比べて「投票なしで決まるのはおかしい」と答えた人が少なく、反対に「無投票当選もよい」、「わからない」と答えた人が多い。

図 26　投票した人、棄権した人別・無投票当選についての考え方

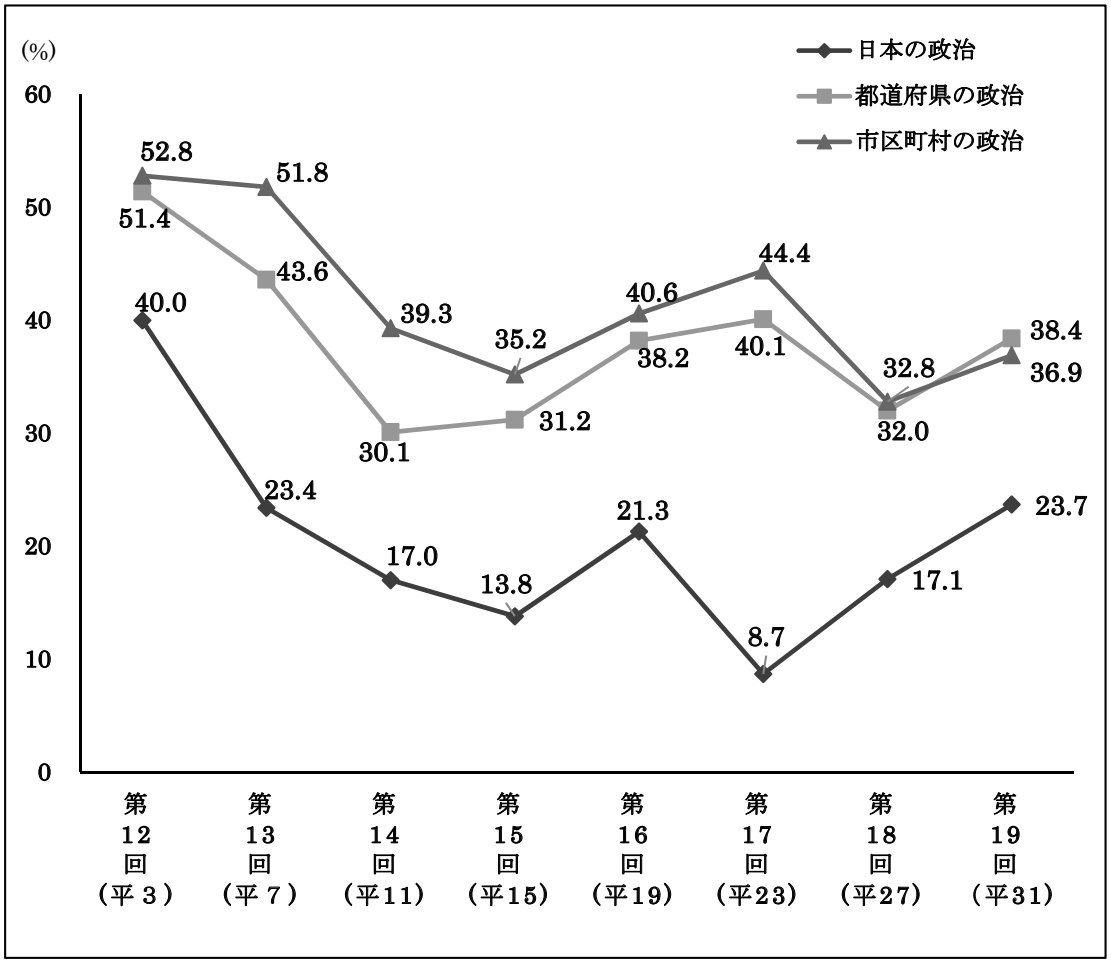


8 国と地方の政治の評価

国及び地方の政治に対する国民の評価を探るため、「日本の政治」、「あなたの県（都・道・府）の政治」、「あなたの市（区・町・村）の政治」に分けて、それぞれ「非常によい」「まあよい」「あまりよくない」「非常に悪い」「どちらともいえない」の５つから選択してもらった。図 27 は、平成以降に実施された統一選の結果を時系列にまとめたもので、それぞれの政治に関して、「非常によい」と「まあよい」の肯定的な評価を合計し、比較したものである。

図 27 からは次のようなことが読み取れる。まず調査開始以来、「日本の政治」より「都道府県の政治」の方が、また「都道府県の政治」より「市区町村の政治」の方がより評価が高く推移してきたが、前回の調査で「都道府県の政治」と「市区町村の政治」の評価がほぼ同じものとなり、今回、初めて都道府県の政治が市区町村の政治を上回った。ただし、今回はどちらも前回より約５ポイント高い結果となっている。「日本の政治」については、前々回 10%を割り込んだが、前回は 17.1%と 10 ポイントほど高くなり、今回はさらに約 6 ポイント高い 23.7%となった。これは第 13 回（平 7）の 23.4%と同等で平成に行われた統一選の中で２番目に高い結果となっている。

図 27 国及び地方の政治に対する好意的評価の割合



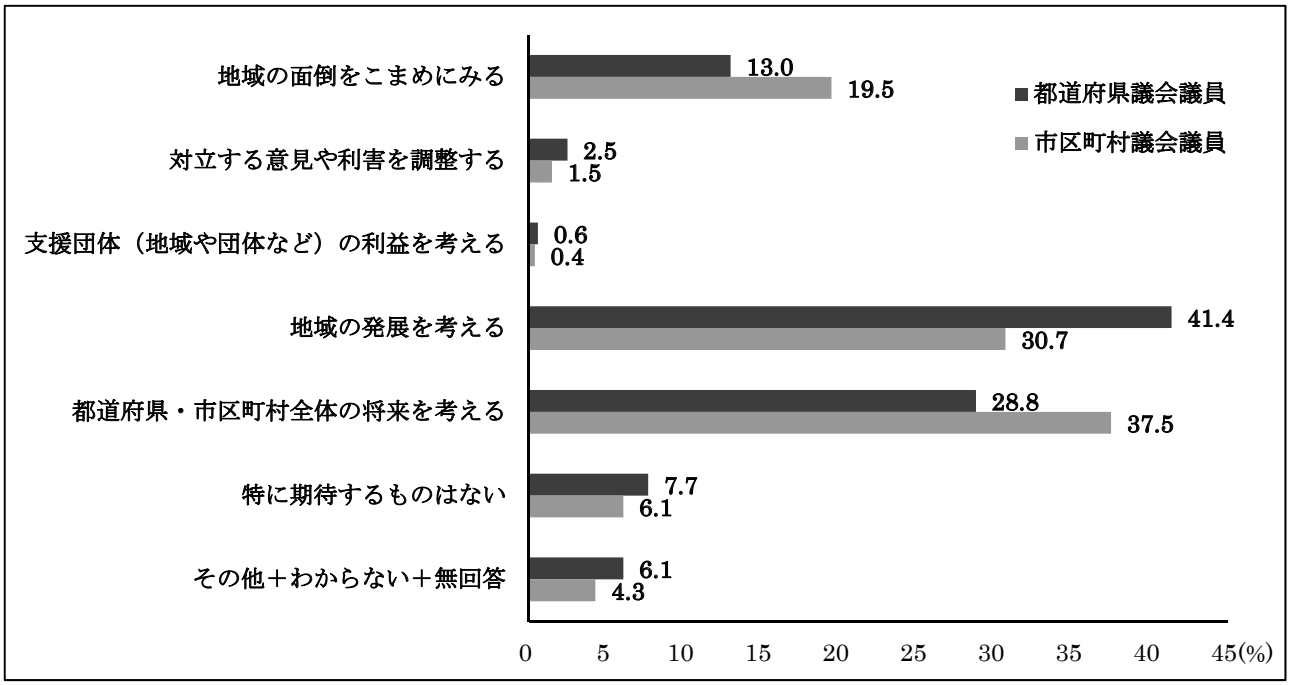
＊第 17 回以前は面接調査、第 18 回以降は郵送調査による。

９ 議員の役割

今回の調査でも全調査対象者に対して「都道府県議会議員に対してどのような役割を望まれていますか」「市区町村議会議員に対してどのような役割を望まれていますか」という二つの質問をし、７つの選択肢から一つだけ選んでもらった。その結果をまとめたのが図 28 である。

これによると、都道府県議会議員では「地域の発展を考える」が最も多く、次いで「都道府県全体の将来を考える」、「地域の面倒をこまめにみる」の順になっている。市区町村議会議員では「市区町村全体の将来を考える」が最も多く、次いで「地域の発展を考える」、「地域の面倒をこまめにみる」の順となっている。前回同様、「地域の発展を考える」という役割は市区町村議会議員よりも都道府県議会議員により多く期待されており、逆に「地域の面倒をこまめにみる」という役割は都道府県議会議員よりも市区町村議会議員により多く期待されている。

図 28 議員の役割

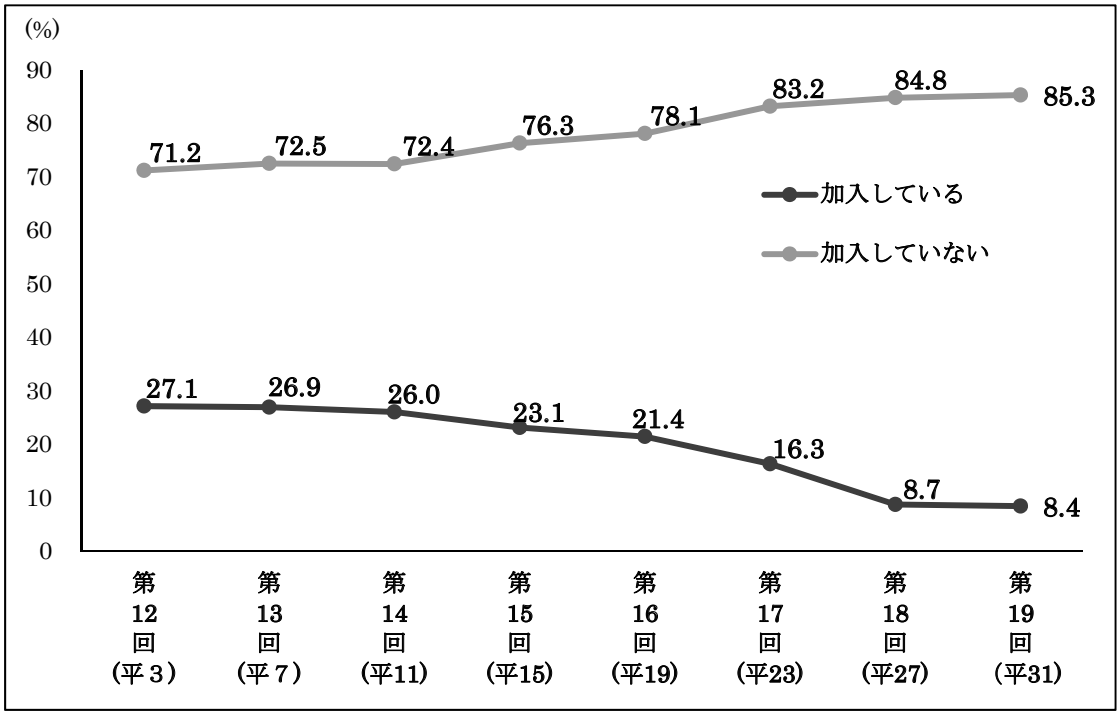


10 後援会への加入

本調査では毎回、「あなたは、今回の統一地方選挙の候補者の後援会に加入されていますか」という質問を行っている。

「加入している」人と「加入していない」人の割合の推移を見たのが図 29 である。「加入している」人は、平成最初の統一選の頃は 30%近くを占めていたが、徐々に減少し、前回には 10%を割った。今回も前回より減少し 8.4%であった。

図 29 後援会への加入状況



＊第 17 回以前は面接調査、第 18 回以降は郵送調査による。

11 政治家の寄附禁止の周知

政治家が選挙区内の人に寄附をすることは禁止されており、原則として罰則の対象となっている。このことを知っていたかどうかを尋ねたところ、前回（89.9%）からは若干減少したものの依然として９割近い 89.0%の人が「知っていた」と答えた。

さらに、「お歳暮やお中元」など 12 項目を示し、「政治家が、下記のものを選挙区内の人に贈ることは、罰則をもって禁止されている寄附にあたると思いますか」という質問を行った。この選択肢の内「政治家本人が自ら出席する場合の結婚祝」と「政治家本人が自ら出席する場合の葬式の香典」は、禁止されてはいるものの罰則の対象にはならないので、この２つを挙げた場合は誤答になる。

その結果をまとめたのが表 12 であるが、回答の傾向はこれまでの調査と概ね変わっていない。具体的な禁止項目の認識は、「お歳暮やお中元」が最も高く、前々回が 78.2%、前回が 75.4%で、今回は 76.3%であった。他方、「葬式の花輪・供花」(37.5%)、「秘書等が代理で出席する場合の結婚祝」(39.0%)、「病気見舞」(35.7%)、「秘書等が代理で出席する場合の葬式の香典」(37.3%) の認知度は４割以下と低い。

政治家の寄附が禁止されていることの周知度は高いが、禁止されている寄附行為の具体的形態についての有権者の認知度には依然としてバラツキが見られる。今後も継続した寄附禁止の周知の徹底が望まれる。

表 12 寄附禁止（具体事例）の認知度 (%)

		第 15 回（平 15）	第 16 回（平 19）	第 17 回（平 23）	第 18 回（平 27）	第 19 回（平 31）
正答	お歳暮やお中元	76.0	77.1	78.2	75.4	76.3
	入学祝、卒業祝	63.1	65.1	67.5	66.0	68.7
	町内会の集会や旅行などの催し物への寸志や飲食物の差し入れ	54.1	59.1	58.5	56.7	57.7
	落成式、開店祝いの花輪	52.8	40.9	54.2	45.3	47.8
	葬式の花輪、供花	50.6	53.5	46.8	37.4	37.5
	お祭りへの寄附や差し入れ	50.4	51.4	53.9	46.9	49.3
	地域の運動会やスポーツ大会への飲食物の差し入れ	48.3	51.7	53.6	48.0	50.3
	秘書等が代理で出席する場合の結婚祝	42.5	42.0	45.3	34.9	39.0
	秘書等が代理で出席する場合の葬式の香典	40.9	40.9	42.7	33.2	37.3
	病気見舞	40.0	42.2	45.2	32.8	35.7
誤答	政治家本人が自ら出席する場合の結婚祝	34.1	33.7	37.1	17.7	19.2
	政治家本人が自ら出席する場合の葬式の香典	31.8	31.7	33.5	16.1	17.8

＊第 17 回以前は面接調査、第 18 回以降は郵送調査による。

12 選挙制度など

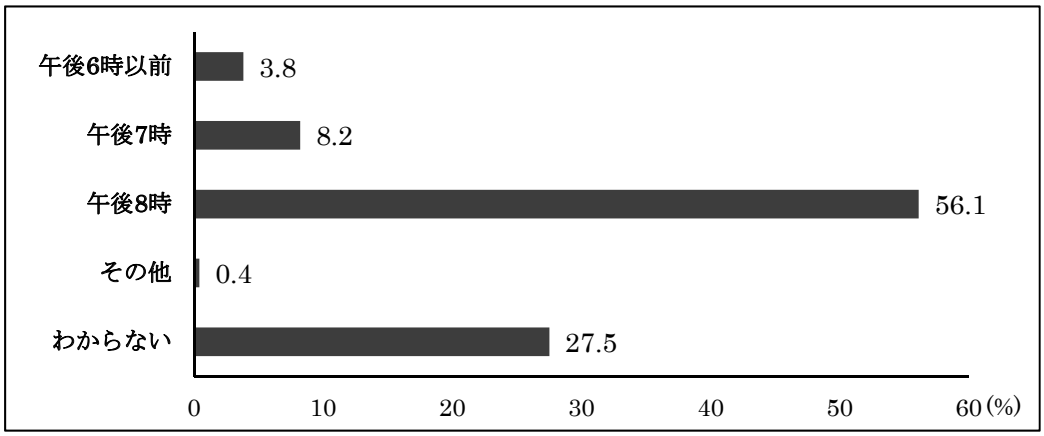
（１）投票時間

有権者ができるだけ投票しやすいように、投票時間は原則午後８時までとなっており、夕方まで仕事のある人や昼間、レジャーに出かけた人も投票ができるようになっている。しかしながら近年、投票の終了時間を早める市区町村が増えている。

本調査では調査対象者の地域の投票所の投票時間が何時までであったかを尋ねており、その回答結果は図 30 のとおりである。このうち「午後８時」と回答した人に絞って、投票した時間をまとめたのが表 13 である。これによると、午後６時以降に投票した割合は、全体では 10.4％であるが、年代による違いが大きい。今回は 40 歳代（22.7％）が最も高く、次いで 18～20 歳代（19.0％）、50 歳代（15.9％）、30 歳代（13.9％）が続く。

若年層に限らず、中年層の利用も目を引く。反対に 60 歳代以上の大半は午前中に投票を済ませており、午後６時以降は 2～3％台に過ぎない。

図 30 投票所の投票時間



＊「無回答」は除いた。

表 13 投票時間（各年代ごとの投票時間の割合） (%)

	午前中	午後（6時まで）	午後6時から8時の間
全体	58.3	31.3	10.4
18～20 歳代	33.3	47.6	19.0
30 歳代	47.2	38.9	13.9
40 歳代	46.7	30.7	22.7
50 歳代	46.4	37.7	15.9
60 歳代	69.0	27.6	3.4
70 歳代	72.0	25.8	2.2
80 歳以上	77.3	22.7	0.0

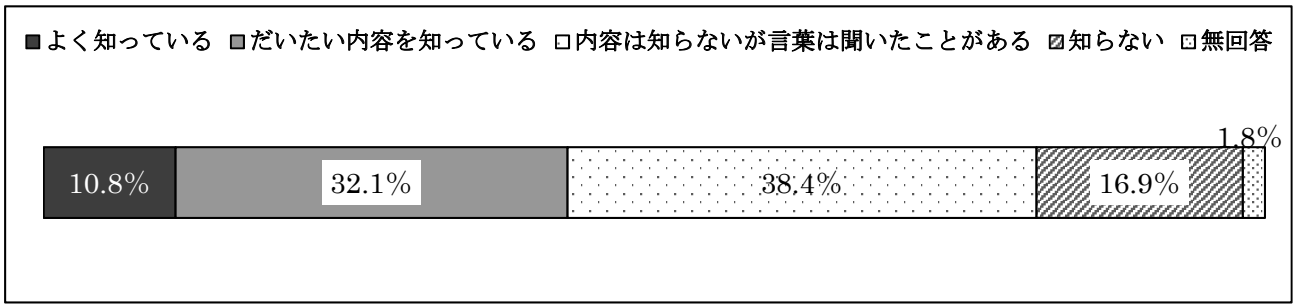
＊「わからない」、「無回答」は除いて計算した。

（２）国民投票法

本調査では「憲法改正のためには、国民が賛否を投票することが必要となります（国民投票制度）が、あなたはこの制度を知っていますか」と国民投票法の認知度を尋ねている。[8]

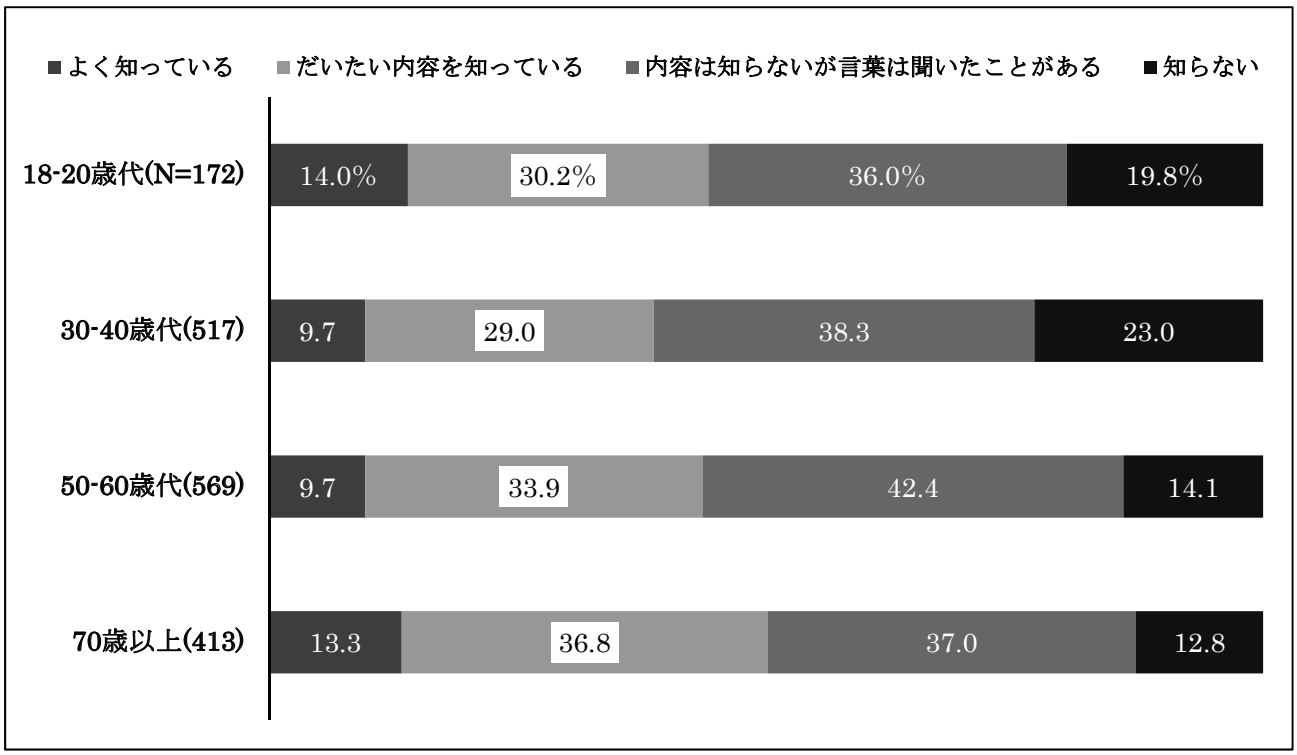
今回、「よく知っている」と回答したのは 10.8%で前回の 3.3%より約７ポイント高かった。「だいたい内容を知っている」が 32.1%（前回 21.0%）、「内容は知らないが言葉は聞いたことがある」が 38.4%（前回 40.9%）、「知らない」は 16.9%で前回（32.4%）の約半分程度であった。

図 31 国民投票認知度



年代別に見ると、「よく知っている」、「だいたい内容を知っている」を合わせた割合は、30～40 歳代が 38.7%で他の年代より若干低く、18～20 歳代 44.2%、50～60 歳代 43.6%、70 歳以上は最も高い 50.1%であった。

図 32 年代別国民投票認知度



＊「無回答」は除いた。

[8] 前回と質問文が異なる。前回は「あなたは「国民投票法（憲法改正国民投票法)」を知っていますか」と尋ねた。

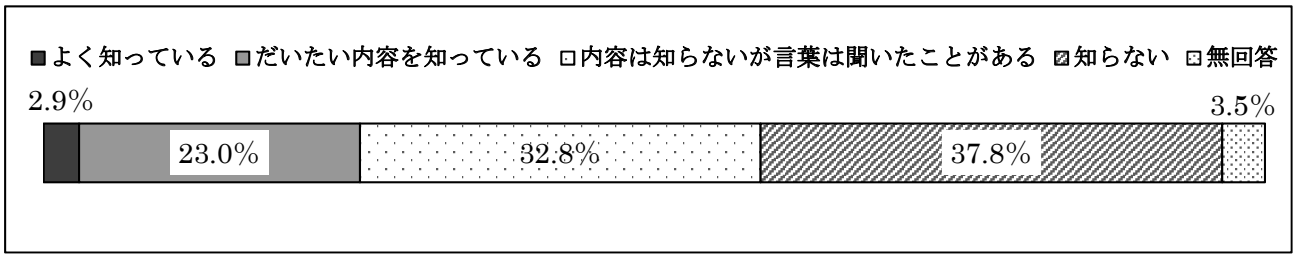
（３）政治分野における男女共同参画

平成 30 年 5 月に、衆議院、参議院及び地方議会の選挙において、男女の候補者数ができる限り均等となることを目指すことなどを基本原則とした「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」が公布、施行された。

このことについて「知っているか」尋ね、その回答結果を図 33 にまとめた。

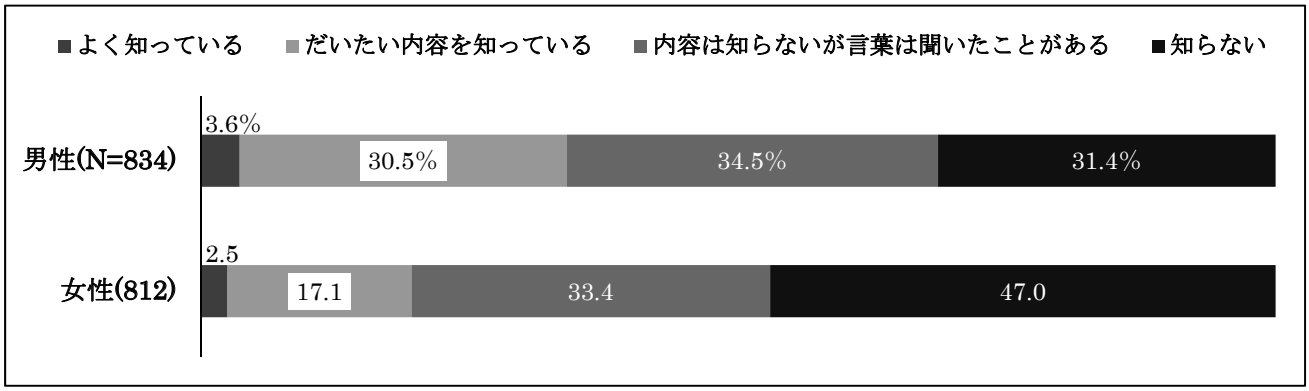
「よく知っている」と回答した人は 2.9%、「だいたい内容を知っている」は 23.0%、「内容は知らないが言葉は聞いたことがある」は 32.8%、「知らない」は 37.8%であった。

図 33 男女共同参画認知度



男女別の認知度を見てみると（図 34)、「よく知っている」は男性が 3.6%、女性は 2.5%でわずかに男性が上回るが、「だいたい内容を知っている」まで含めると男性は 34.1%と、女性の 19.6%より約 15 ポイント高くなる。

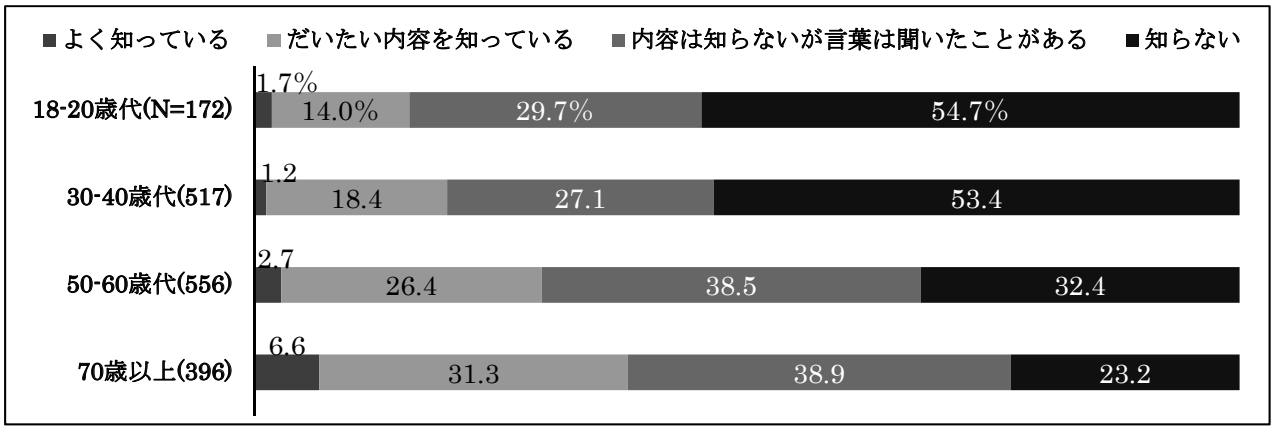
図 34 男女別男女共同参画認知度



＊「無回答」は除いた。

これを年代別に見たのが図 35 である。「よく知っている」、「だいたい内容を知っている」は、年齢が上がるにつれて増加していくが、両者を合わせた割合は、18～20 歳で 15.7%、30～40 歳代で 19.6%、50～60 歳代で 29.1%、70 歳以上で 37.9%に止まっている。

図 35 年代別男女共同参画認知度



＊「無回答」は除いた。

「よく知っている」、「だいたい内容を知っている」と回答した人に、政治分野における男女共同参画の推進に関する法律は、女性議員を増やすためにどの程度有効かを尋ねた（表 14）。全体では「多少の効果はあると思う」が 60.1%と最も高く、次いで「努力義務なので、あまり効果的ではない」の 34.2%であった。男女別の選択率を見ると、大きな違いは見られないが、「多少の効果はあると思う」は男性が約 2 ポイント高かった。

表 14 男女共同参画の有効度（男女別）

(%)

	全体	男性 (N=281)	女性 (154)
努力義務なので、あまり効果的ではない	34.2	34.5	35.7
多少の効果はあると思う	60.1	61.9	59.7
かなり効果的である	3.8	3.6	4.5

＊「無回答」は除いた。

また「日本で女性議員が少ないのはなぜだと思われますか」と調査対象者全員に尋ねたところ、「政治活動は家庭と両立しにくいから」が 32.0%で最も高く、次いで「政党が本気で女性を発掘しようとしないから」（23.0%）、「政治家という職業に魅力を感じる女性が少ないから」（16.0%）が続く（表 15）。男女別では「政党が本気で女性を発掘しようとしないから」、「政治活動は家庭と両立しにくいから」を理由とした割合が、女性の方が男性より約 4～5 ポイント高かった。

表 15 女性議員が少ない理由（男女別）

(%)

	全体	男性 (N=801)	女性 (775)
政治に関心のある女性が少ないから	8.5	10.5	7.9
政治家という職業に魅力を感じる女性が少ないから	16.0	19.4	15.4
政治活動は家庭と両立しにくいから	32.0	32.7	36.6
政党が本気で女性を発掘しようとしないから	23.0	22.6	27.0
有権者が男性の方を政治家としてふさわしいと思っているから	13.0	14.9	13.2

＊「無回答」は除いた。